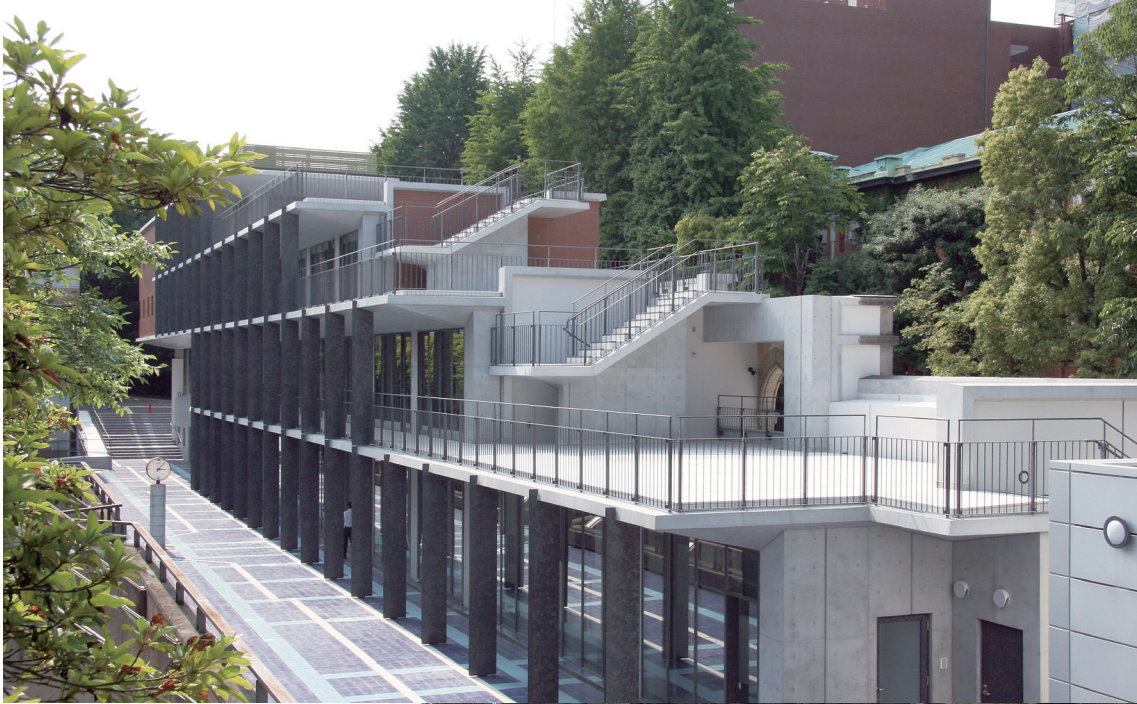


学内広報

for communication across the UT



2009年（第59回）学生生活実態調査の結果

2010.12.6

No. 1406

目 次

調査の概要

報告について

グラフと表について

第1部 学生生活の評価と将来の選択

- 1 大学院入学の目的……………3
- 2 学会参加・留学……………4
- 3 研究活動……………6
- 4 就職……………13
- 5 不安・悩み……………14
- 6 大学への要望……………15

第2部 学生生活の背景

- 1 家庭の状況……………16
 - 2 生活費の状況……………19
 - 3 研究奨励金及び奨学金……………20
 - 4 アルバイト……………22
 - 5 研究・学生生活のサポート体制……………23
- 特殊分析の試み……………25
- 総合分析の試み……………28
- 資料1（調査票及び単純集計結果）……………35

調査の概要

1. 調査票の作成

2009年（平成21年）5月から10月にかけて、学生委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2009年（平成21年）11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

大学院男子・女子学生。研究科系統別無作為抽出法で、在籍者数の1/4を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する（自記式）方法。

5. 調査の内容

I. 基本的事項、II. 大学院入学の目的、III. 学会参加・留学、研究活動、IV. 就職、V. 不安・悩み、VI. 大学への要望、VII. 家庭の状況、VIII. 生活費の状況、IX. 研究奨励金及び奨学金、X. アルバイト、XI. 研究・学生生活のサポート体制、XII. 具体的記述

報告について

1. 今回は、2004年（第54回）調査以来5年ぶりに、大学院男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。集計結果の分析に当たっては、研究科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。

2. 学内広報掲載の報告については、クロス集計表を省略した。クロス集計表については、ホームページ掲載の報告を参照されたい。

3. 昨年度までは、2分の1程度の具体的記述を原文のまま報告書に記載していたが、読む人によって個人が特定できる可能性があること、さらに、報告書掲載の基準が恣意的になりやすいこともあり、本年度より具体的記述は報告書に掲載しないことにした。ただ、このことは具体的記述を無視するとか軽視することを意味しているわけではなく、それぞれの具体的記述は学生生活調査室で検討するとともに、担当理事によっても検討され、大学の施策の改善に役立てられている。

4. 本文中の「ポイント」とは、総数の百分率（パーセント）を表す。

5. 今回の単純集計表及びクロス集計表は、大学総合教育研究センターの作成による。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1985年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表1」に1958年以降の調査の実施状況を表示した。
2. 本文中に掲げたグラフと表については、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「非該当」を除いた比率で作成している。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100%に満たないものと100%を超えるものがある。
3. 複数回答の設問については、非該当を除く比率を示した。このため各選択肢の合計は100%を超える。
4. 平均値の算出は、無回答のものを除く該当者平均を求めた。
5. 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
 - 「全体」……………回答者全員の比率を示す。
 - 「文科系」「理科系」……………在籍する研究科等により二つの系に区分したものを示す。

表 1 学生生活実態調査（大学院学生）実施状況

回数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
第9回	1958年12月	課程在籍者	男子 1/5 女子 1/5	人 248	% 95.6	面接調査 (一部郵送)
第11回	1960年11月	課程在籍者 + 留年者	男子 1/3 女子 全数 留年者 全数	785	85.2	〃
第17回	1966年12月	課程在籍者	全 数	3,002	48.7	研究科窓口配布 (一部郵送)
第28回	1978年12月	課程在籍者	男子 1/4 女子 全数	1,177	66.2	郵送自記式
第35回	1985年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/2~1/4 女子 1/2 OM、OD 1/2	1,382	66.3	〃
第42回	1992年11月	課程在籍者	男子(文) 1/2 男子(理) 1/6 女子 1/2	1,496	59.8	〃
第49回	1999年11月	課程在籍者 + OM、OD	男子 1/4 女子 1/4	2,099	49.5	〃
第54回	2004年11月	課程在籍者	男子 1/4 女子 1/4	2,539	40.6	〃
第59回	2009年11月	課程在籍者	男子 1/4 女子 1/4	2,675	49.9	〃

注 1) 「OM」はオーバーマスター、「OD」はオーバードクターの略を示す。

2) 「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。但し、1992年調査は「OM、OD」を除き「外国人留学生」を含む。

表2 2009年(第59回)学生生活実態調査回収状況一覧

区 分	専門職学位課程及び修士課程						博 士 課 程						全 体		
	男 子			女 子			男 子			女 子					
	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率
人文社会系研究科	人	人	%	人	人	%	人	人	%	人	人	%	人	人	%
教育学研究科	34	16	47.1	26	16	61.5	48	28	58.3	26	19	73.1	134	79	59.0
法学政治学研究科	24	15	62.5	16	9	56.3	23	11	47.8	15	8	53.3	78	43	55.1
法學政治学研究科	108	55	50.9	62	36	58.1	11	4	36.4	4	3	75.0	185	98	53.0
経済学研究科	21	6	28.6	3	1	33.3	15	6	40.0	5	4	80.0	44	17	38.6
総合文化研究科	68	40	58.8	37	28	75.7	81	42	51.9	40	22	55.0	226	132	58.4
理学系研究科	142	74	52.1	32	20	62.5	114	61	53.5	26	17	65.4	314	172	54.8
工学系研究科	389	155	39.8	36	19	52.8	124	61	49.2	20	9	45.0	569	244	42.9
農学生命科学研究科	99	37	37.4	39	23	59.0	67	28	41.8	25	17	68.0	230	105	45.7
医学系研究科	15	6	40.0	29	23	79.3	121	56	46.3	64	39	60.9	229	124	54.1
薬学系研究科	30	13	43.3	16	11	68.8	21	13	61.9	6	3	50.0	73	40	54.8
数理科学研究科	18	8	44.4	0	0	0	14	8	57.1	0	0	0	32	16	50.0
新領域創成科学研究科	177	94	53.1	50	25	50.0	72	36	50.0	23	12	52.2	322	167	51.9
情報理工学研究科	88	33	37.5	4	2	50.0	34	13	38.2	3	1	33.3	129	49	38.0
学際情報学府	24	10	41.7	10	6	60.0	15	2	13.3	8	5	62.5	57	23	40.4
公共政策学教育部	38	21	55.3	15	5	33.3	0	0	0	0	0	0	53	26	49.1
合 計	1,275	583	45.7	375	224	59.7	760	369	48.6	265	159	60.0	2,675	1,335	49.9
2004年(第54回)調査	1,113	413	37.1	318	168	52.8	821	321	39.1	287	129	44.9	2,539	1,031	40.6

※「対象者数」は2009年(平成21年)5月1日現在の課程在籍者数である。ただし、休学者、留学者及び外国人留学生を除く。

第1部 学生生活の評価と将来の選択

1-1. 大学院入学の目的

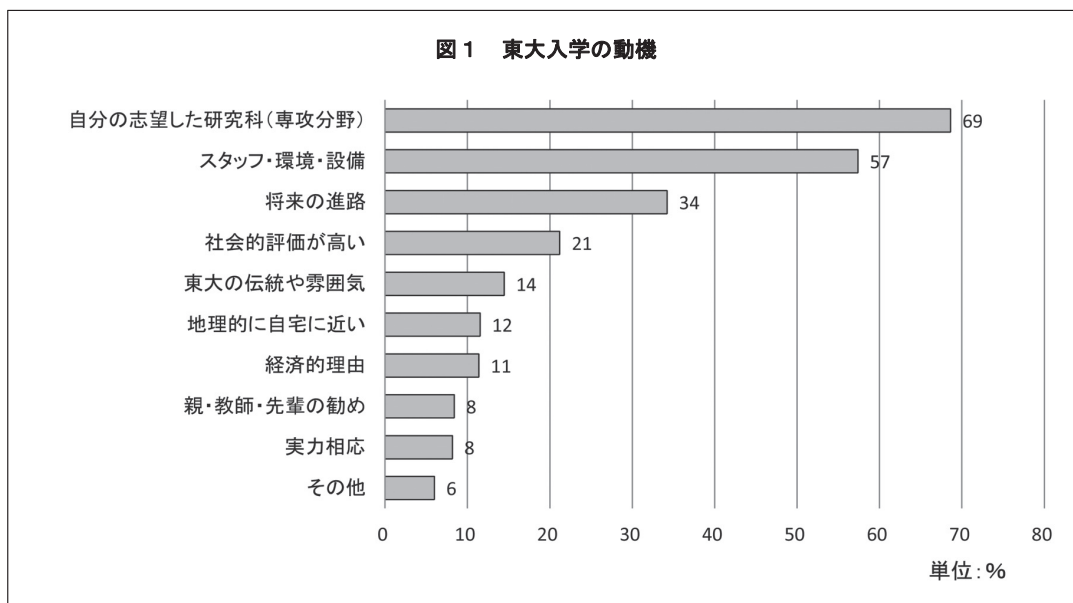
- ・入学の目的「高度の専門知識・技術を身につけるため」70.4%
- ・入学の動機「自分の志望した研究科（専攻分野）があったから」68.6%、「スタッフ・環境・設備が優れているから」57.4%

大学院入学の目的は、前回調査（2004年（第54回））と同様に「高度の専門知識・技術を身につけるため」が70.4%でもっとも多く、次いで「大学等の研究・教育職をめざして」36.0%、「社会に貢献できる能力・資質を身につけるため」が23.8%、「学位を取得するため」が20.1%の順となっている（クロス集計表1-1表）。

東大入学の動機については、前々回調査までは主たる動機を重視した順に、第1位から第3位まで調査したが、前回調査からは順位をつけずに、主たる動機を無順位に三つまで選択可として調査した。前回と今回との比較では、前回調査同様「自分の志望した研究科（専攻分野）があったから」が68.6%でもっとも多く、次いで「スタッフ・環境・設備が優れているから」57.4%、「将来の進路を考えて」34.2%と続き、前回調査と同順位となっている。また、「社会的評価が高い」21.2%は、前回調査と同様第4位となっている（図1、クロス集計表1-2表）。

「現在所属する大学院を選ぶ際、他にどのような進路を考えましたか」の間では、前回調査では選択肢に無かった「他大学の大学院」が44.0%と最多となり、次いで、前回第1位であった「考えなかった」が32.6%、前回第2位であった「東大内の現在所属する大学院以外の大学院」17.3%の順となっており、他大学の大学院への進学が重要な選択肢となってきていることが注目される（クロス集計表1-3表）。

最終的に本学を選んだ理由は、「希望専攻分野が東大の方が充実していた」61.1%で前回同様第1位であるが、前回調査では65.1%であったのに比べると、やや減少している（クロス集計表1-4表）。



1-2. 学会参加・留学

- ・学会（国内）の「所属数」1.0、「参加数」1.4回、「発表数」1.0件
- ・海外学術調査の経験「ある」16.6%、留学の経験「ある」6.5%
- ・留学希望者70.2%、留学希望先は希望者のうち「西ヨーロッパ」77.2%、「北米」74.2%

1-2-1. 学会参加

現在所属している国内の学会数は、「1」が36.5%、「2」15.1%、「3以上」13.2%となっている。前回調査（2004年（第54回））と同様に、理科系は文科系に比べ多くの学会に所属しており、また、博士課程在籍者の9割程度が何らかの学会に所属している。国内に比べ国外の学会に所属している者は、あまり多くはみうけられず、「1」の9.9%で、他は極めて少ない（クロス集計表2-1表）。

過去1年間の国内の学会参加回数は「1回」24.7%、「2回」20.0%、「3回以上」が24.5%で、発表件数は「1件」26.7%、「2件」14.4%、「3件以上」が10.6%である。また、国外の学会参加回数は「1回」15.9%、「2回」3.9%で、発表件数は「1件」14.5%、「2件」3.4%である（クロス集計表2-3表）。

1-2-2. 留学等

大学院入学後、海外学術調査の経験が「ある」と答えた者は16.6%で前回調査と比較して、1.3ポイントの増加となっている。これは修士課程在籍者（8.6%）より博士課程在籍者（31.9%）で多くみられ、23.3ポイントの差がある。また、女子18.4%は男子16.0%に比べて海外学術調査の経験者が多い傾向にあるがその差は2.4ポイントで、前回調査（6.8ポイント）に比較して小さくなっている（クロス集計表2-7表）。

「大学院に入学してから海外留学をした体験がありますか」という間に、「ある」と答えた者は、全体で6.5%となっている。前回調査と比べて、2.8ポイントの大きな増加となっている。また、海外学術調査の経験と同様、博士課程在籍者と女子に多めにみうけられる（クロス集計表2-8表）。

「外国の大学と交換留学制度があれば留学したいと思っていますか」という間に、70.2%（男子67.4%、女子77.6%）が「条件によっては留学したい」と回答しているが、前回調査より7.9ポイント減少している（クロス集計表2-9表）。

交換留学制度があれば留学先としたい地域は、前回に続き今回の調査でも順位をつけずに、主たる地域を無順位に二つまで選択可として調査した。その結果、前回調査で第2位の「西ヨーロッパ」が77.2%で第1位、次いで、「北アメリカ」74.2%、「アジア」10.3%の順となり欧米重視の傾向が窺われる（クロス集計表2-10表）。

「大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか」という間に、「留学したい」36.0%、「どちらかといえば留学したい」が23.5%となっており、これら双方を合わせると男子の場合57.1%、女子の場合65.2%を占める。（図2-1～2、クロス集計表2-11表）。研究科により留学希望に差異があり、希望の多いところは、学際情報(80.9%)、「留学したい」と「どちらかといえば留学したい」の計)、人文社会系(79.7%)、総合文化(75.6%)、経済学(64.7%)となっていた。

図2-1 大学院在学中の海外留学希望

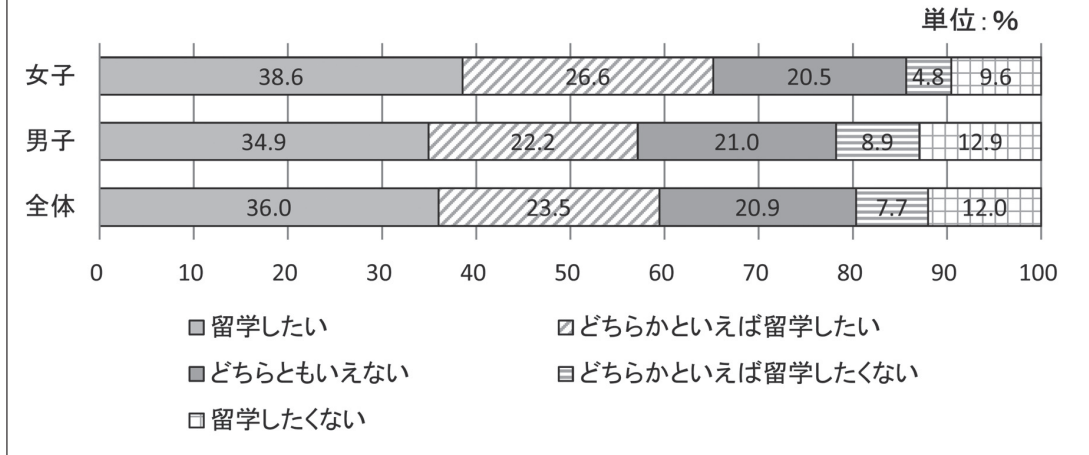
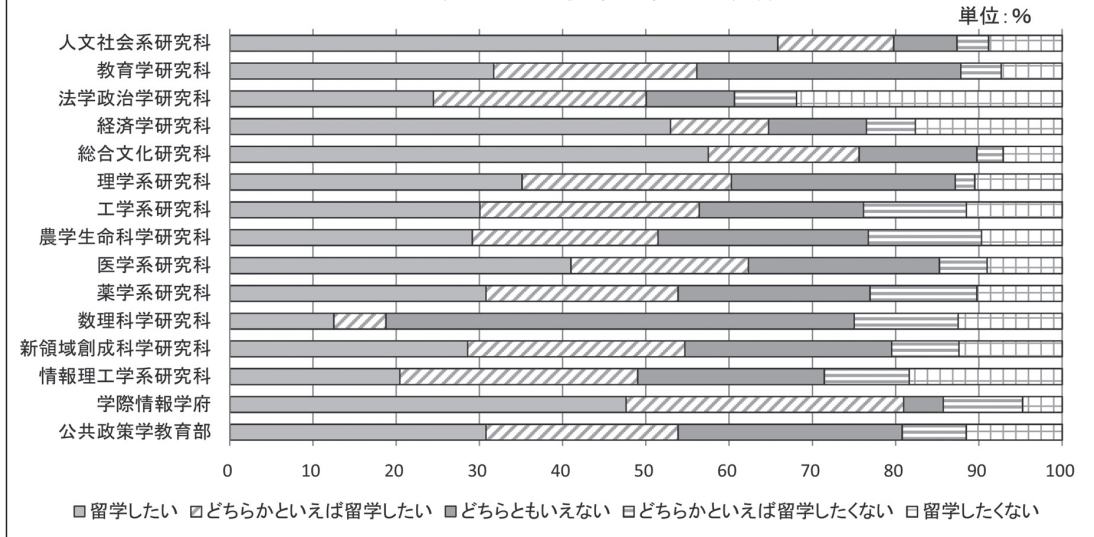


図2-2 大学院在学中の海外留学希望（研究科別）

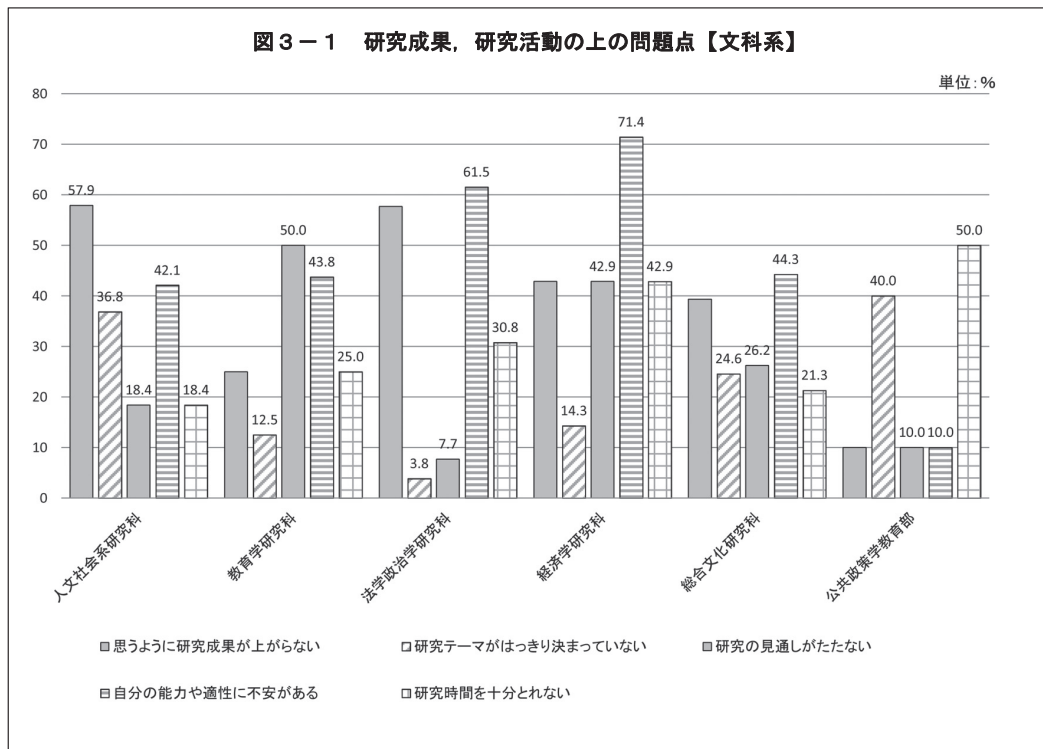


1-3. 研究活動

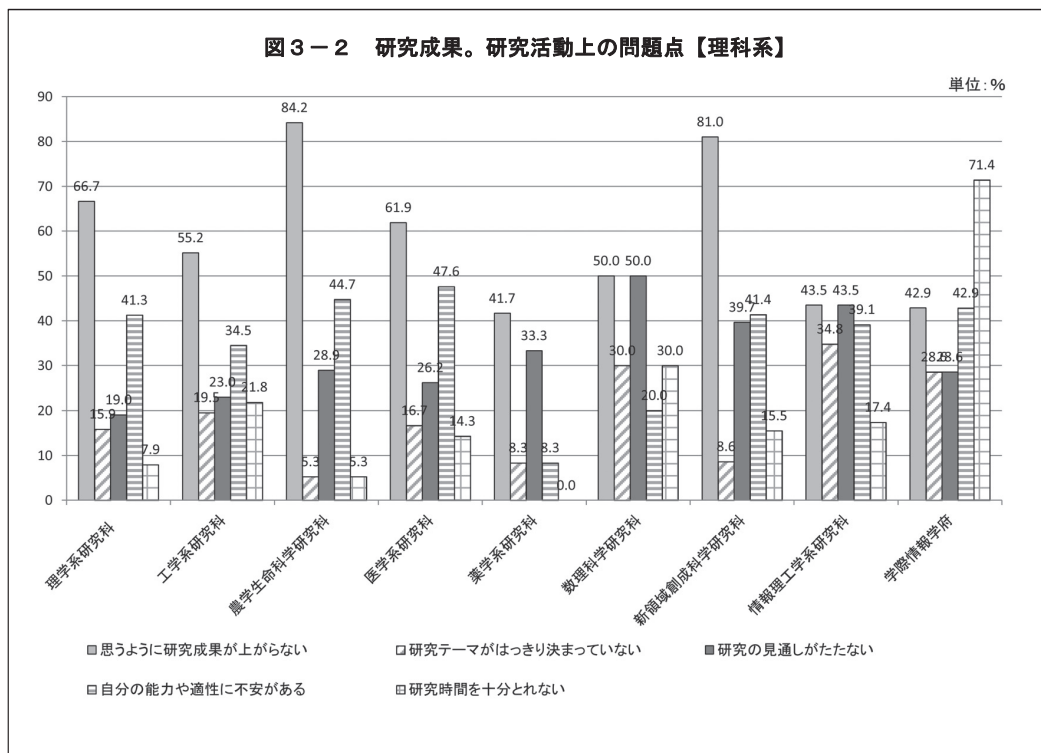
- ・自分の研究成果に対する「不満」「やや不満」が37.9%
- ・研究経費の自己負担は年平均182,400円（前回調査に比べ約13,000円増加）
- ・「非常勤講師或いはT A、R Aの経験がある」理科系55.6%、文科系35.2%
- ・「専用の机がある」理科系91.5%、文科系11.5%
- ・「1週間平均の研究時間」理科系47.4時間、文科系38.6時間

「あなたご自身のこれまでの研究成果についてどうお考えですか」という問に、「不満」15.2%、「やや不満」22.7%となり、前回調査と比べて「不満」が4ポイント増え、依然として約4割の者が不満と回答している（クロス集計表3-1表）。

研究の成果に「不満、やや不満」と答えた者に、「不満と感じている問題」を尋ねたが、結果は多様となっている。第1位から第3位は、「思うように研究成果が上がらない」57.5%、「自分の能力や適性に不安がある」40.9%、「研究の見通しがたたない」26.9%となり、前回調査と同じ傾向にある。次いで、「研究時間が十分とれない」18.8%、「研究テーマがはっきり決まっていない」18.4%、「今やっている研究の意義がはっきりつかめない」18.4%、「教員の指導が不十分である」14.0%となっている（図3-1～2、クロス集計表3-2表）。ここでも研究科による違いは大きい。文科系では、総じて「自分の能力や適性に不安がある」（45.6%）が多く、次いで「思うように研究成果が上がらない」（43.7%）点を案じている。理科系のほとんどの研究科では「思うように研究成果が上がらない」（64.1%）が最も大きな理由であり、特に理学系、工学系、農学生命科学、医学系、数理学、新領域創成科学研究科では、半数以上の学生がそれを挙げている。



研究室での日常生活の中で、複数の項目について満足度を尋ねたところ（以下、満足度は「満足」「まあ満足」の計、不満度は「やや不満」「不満」の計）、「研究設備・スペースについて」は、総じて不満と答える者は22.4%で、前回と比較すると、全体で9ポイント減少したが、文科系（46.7%）は理科系（12.5%）の4倍近くになっている。「研究上の経費について」についても、不満を示す割合（22.2%）は研究スペースと同様の傾向が見られ、文科系（44.7%）は理科系（13.0%）の3倍を超えている。このように、これらの項目では文科系と理科系には体系的な差が認められる。とりわけ不満の高かったものの中で、「研究設備・スペース」については人文社会系、教育学、法学政治学、総合文化研究科および公共政策学教育部で4～6割近くに不満が見られ、「研究上の経費」については文科系すべての研究科等で4～5割が不満を持っている。次に、「人間関係について」は、文科系・理科系ともに十数%の学生が不満を示している。「指導教員の研究指導方法について」は、前回調査とは逆転し、理科系（64.9%）の方が文科系（55.1%）に比べ強く満足感を示している。「所属研究科事務の対応について」は、「満足」と回答する者は理科系で7.6ポイント上回る。また、男女別にみると、全ての項目で女子は男子よりも総じて「不満」と回答しており、前回調査の状況と変わっていない（図4-1～5、クロス集計表3-3-1～5表）。



「あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間でどれくらいですか」という問に、各費目の平均の合計では182,400円と回答されている。男女別にみると、全ての項目で女子の負担額が大きく、平均合計額も女子（237,853円）が男子（160,878円）を大きく上回る。また、文科系の負担額（293,122円）は理科系（137,185円）の2倍以上となっている（クロス集計表3-4）。

図4-1 研究室での日常生活の満足度「研究設備・スペース」

単位：%

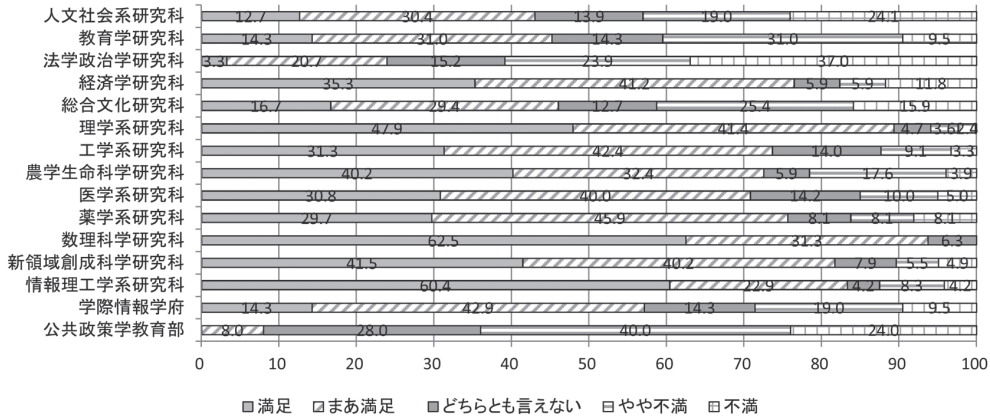


図4-2 研究室での日常生活の満足度「研究上の経費」

単位：%

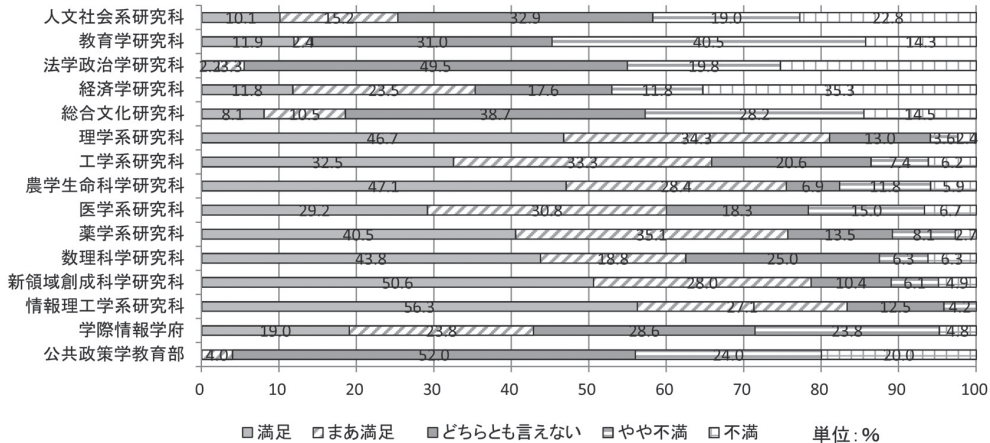
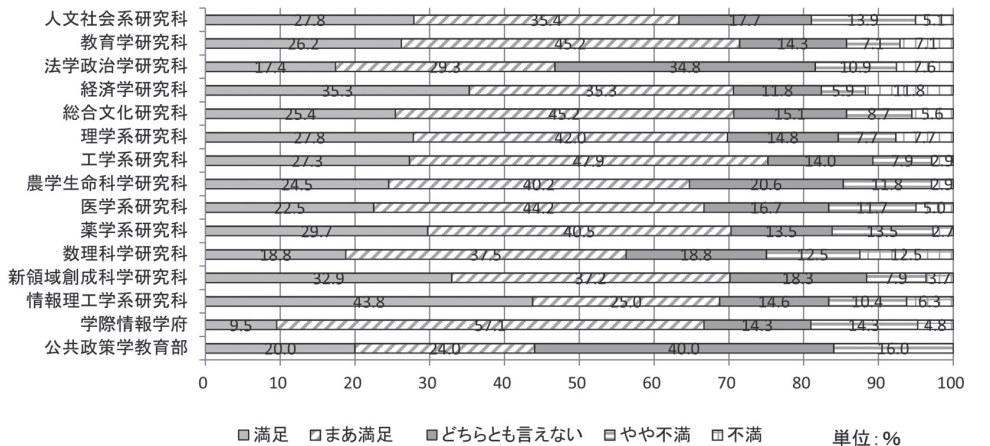
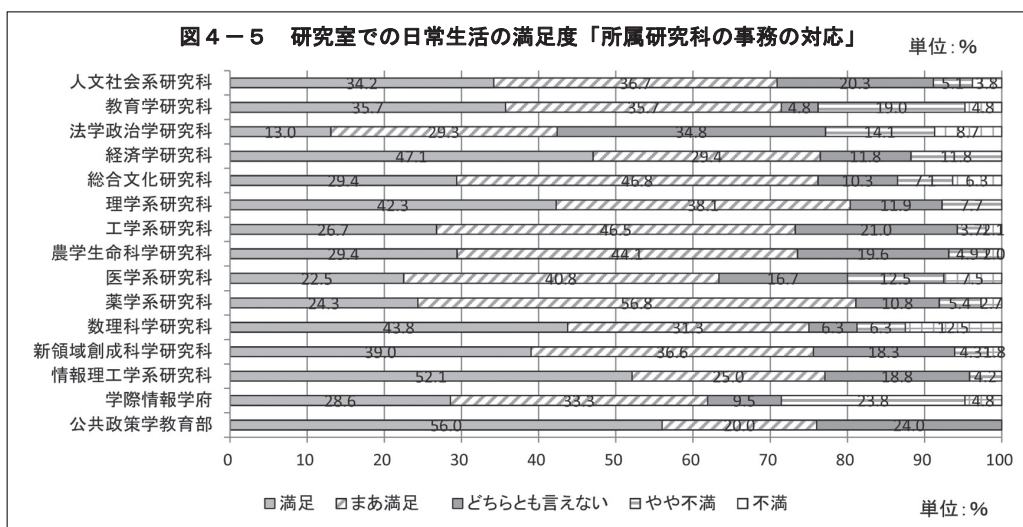
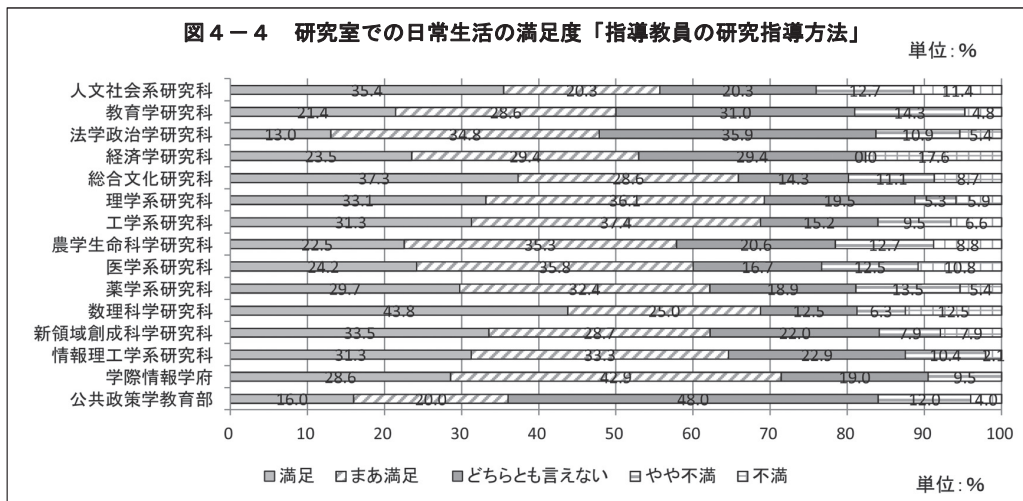


図4-3 研究室での日常生活の満足度「人間関係」

単位：%

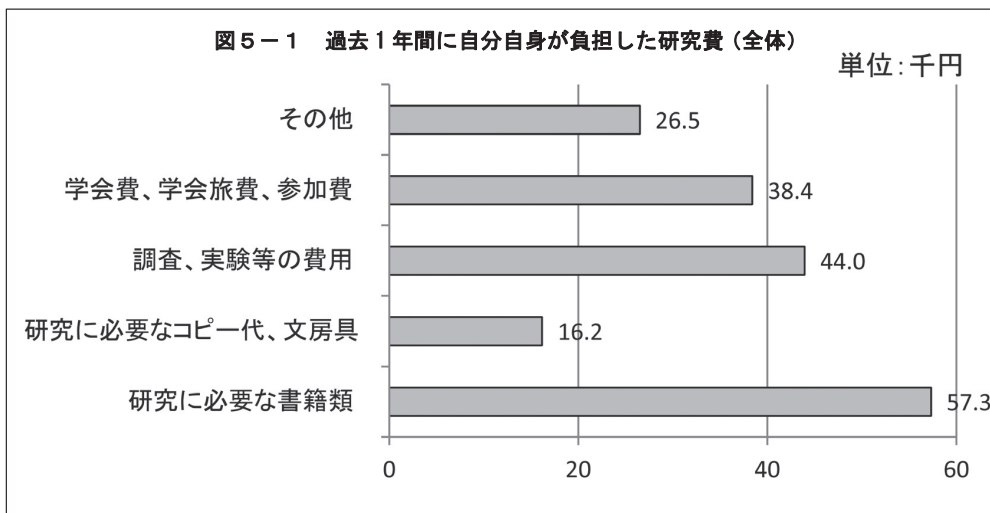




「大学、短大などの非常勤講師或いはTA、RAをしていますか」(TAはTeaching Assistant、RAはResearch Assistantの略)という間に、「していない(したことがない)」者が50.5%(前回調査54.9%)であり、「過去にしたことがある」が23.8%となっている。「現在している」と回答があったのは25.7%で、前回調査からほぼ横ばいである。系別にみると、「していない(したことがない)」者について、文科系64.8%が理科系44.4%に比べて多い。また、男女別にみると男子の割合がやや多く、課程別では博士課程在籍者が占める割合が多くなっている(クロス集計表3-5表)。

「研究室に、あなたの専用又は共用の机はありますか」の間に、「専用の机がある」68.0%、「共用の机がある」16.1%と回答している。理科系では「専用の机がある」が91.5%を占めているが、文科系では「どちらも無い」が46.1%となっており、文科系と理科系では状況はかなり異なっている(クロス集計表3-6表)。

「1週間に何日ぐらい大学に来ますか」との間に、「5日」28.9%、「6日」24.5%、「3~4日」18.1%の順で、総じて「3~6日」と回答する者が71.5%(文科系63.4%、理科系74.8%)となっており、「6日」30.1%、「5日」27.4%、「7日」13.2%の順で、総じて「5~7日」と回答する者が70.7%(文科系40.8%、理科系74.8%)となっていた前回調査の時よりも、大学に来る日数は有意に減少している(クロス集計表3-7表)。



博士論文の執筆予定の間に、「在籍中に書く予定」と答える者が77.4%、「在籍中に書く予定はないが、課程博士は取りたい」11.6%、「既にかいた」8.5%となっている。「既にかいた」と答えた者は、理科系(11.2%)が文科系(2.1%)の約5倍になっている(クロス集計表3-8表)。

「研究上(研究発表と論文作成等を含む)使用する主な言語はどれですか」(主たるものを2つまで選択、博士課程のみについて集計)の間に、「日本語」90.5%、「英語」78.2%と回答する者が大部分を占めており、他を挙げる者は「仏語」3.0%、「中国語」1.3%、「独語」1.3%、と少ない。前回調査と比べて、中国語と独語が同率となっている。使用する外国語について、理科系は専ら「英語」88.3%に集中し、文科系は「英語」53.4%、「仏語」10.8%、「中国語」4.7%、「独語」3.4%、と比較的多様になっている(クロス集計表3-9表)。

1日平均の研究時間は7.9(前回調査7.7)時間である。文科系は6.2(前回調査5.7)時間、理科系は8.6(前回調査8.4)時間で、理科系は文科系に比べ1日平均2.4時間多くなっている。1週間平均の研究時間は平均45.0時間(文科系38.6時間、理科系47.4時間)である。文科系は前回調査(34.3時間)に比べて4.3時間増えているが、それでも理科系は文科系に比べ1週間平均8.8時間多い(クロス集計表3-10-1~2表)。



柏キャンパス

図5-2 過去1年間に自分自身が負担した研究費
(研究に必要な書籍類の購入費)

単位:千円

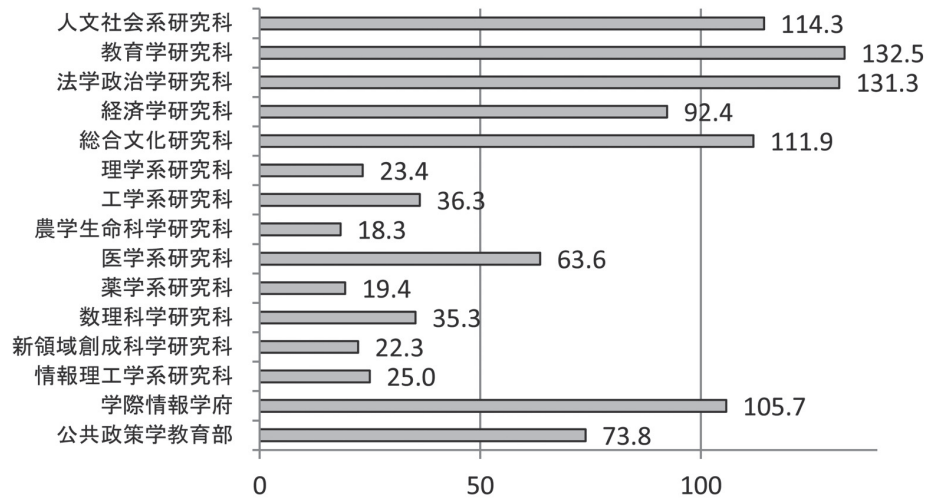
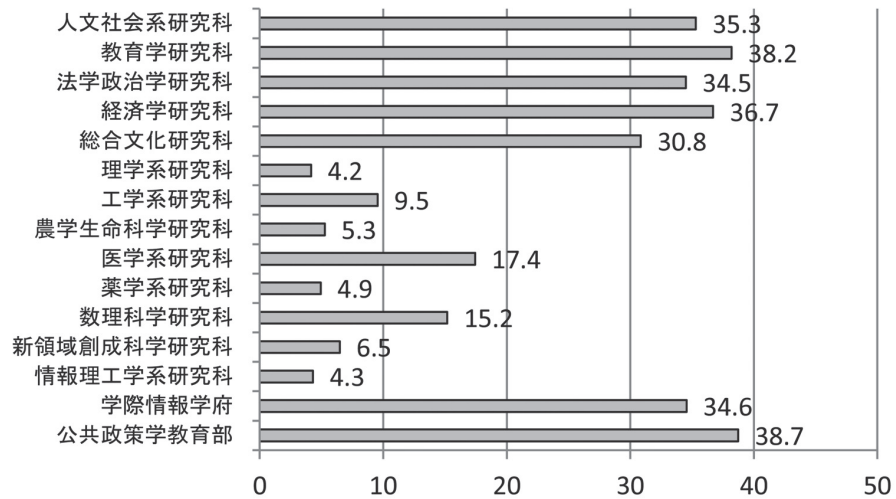
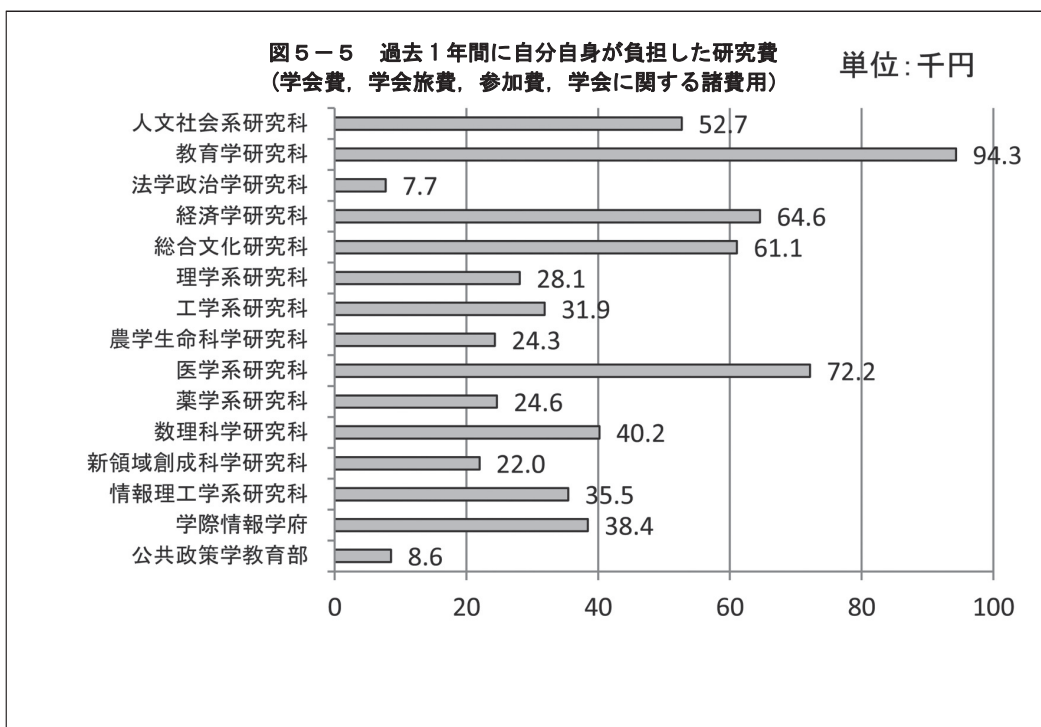
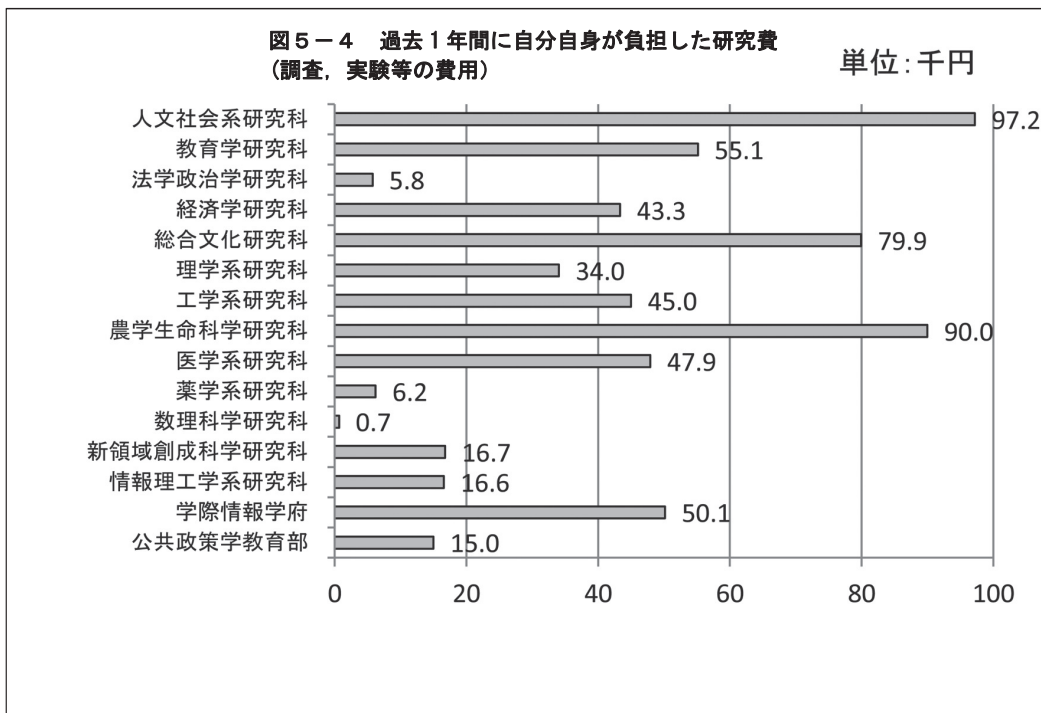


図5-3 過去1年間に自分自身が負担した研究費
(研究に必要なコピー代、その他の文房具の購入費)

単位:千円





1-4. 就職

- ・ 修士課程在籍者は大学院修了後、「研究職や専門職以外で就職したい」46.3%、博士課程在籍者は「研究職に就職したい」45.4%が第1希望
- ・ 第1志望職種「大学の教育職、研究職」38.5%
- ・ 就職の見通しは「かなり厳しい」と「たたない」が文科系52.9%、理科系29.9%

修士課程修了後の進路希望（第2希望まで選択、ただし、前回と異なり第1希望と第2希望の区別はしていない）は、第1希望と第2希望を合わせて、全体としては「研究職や専門職以外で就職したい」46.3%となっている。これを文科系、理科系別にみると、文科系は「修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学したい」が61.4%と6割以上を占め第1位であり、「研究職や専門職以外で就職したい」は29.3%で第2位である。一方、理科系は、「研究職や専門職以外で就職したい」が50.9%で第1位であり、「研究職に就職」42.6%を凌いでいる（クロス集計表4-1表）。博士課程修了後の進路希望（第2希望まで選択、ただし、修士課程と同様、前回と異なり第1希望と第2希望の区別はしていない）は、第1希望と第2希望を合わせて、全体としては「研究職に就職したい」45.4%となっている。また、「特別研究員などとして残りたい（研究生を除く）」の4つの選択肢を合せると、62.0%で6割以上の者が研究員を希望している。この値は、前回調査（2004年）よりも14%程度増加しており、研究者としての継続志向の上昇がうかがわれる（クロス集計表4-2表）。

将来の就職先としては、「大学（短大、附置研究所を含む）の教育職、研究職」が38.5%で、前回調査（2004年調査）同様もっとも多く、次いで「国公立研究機関（独立行政法人を含む）の研究職」24.9%、「企業の研究職、技術職」23.6%と続いている。「大学の教育職、研究職」は、男子にも女子にも人気が高く、ともに第1位に挙げられている。また、専門職学位課程在籍者は「専門職（弁護士、公認会計士、税理士、医師等）」を希望する傾向が強いが、40%弱にとどまっている（図6、クロス集計表4-3表）。

「就職の見通しについて、どのように考えていますか」という問いに、36.3%（前回調査36.1%）と約3分の1が「かなり厳しいと思っている」及び「見通しがたたない」と回答しており、特に文科系は52.9%と半数以上を占めている（クロス集計表4-4表）。

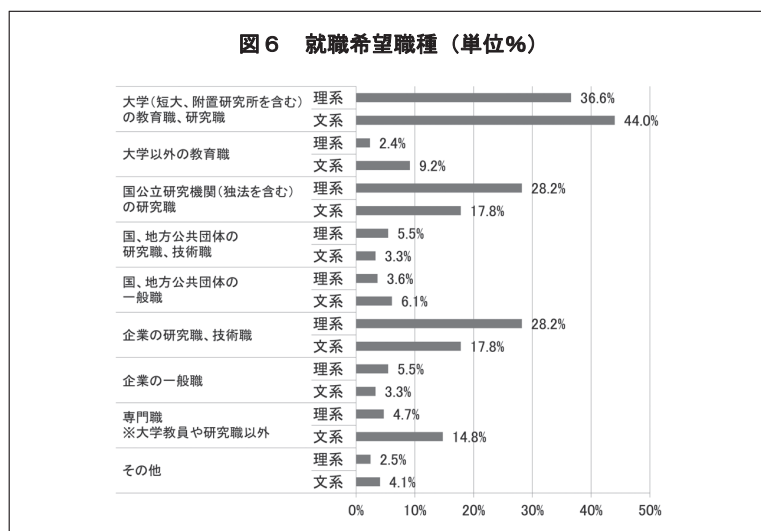
就職の情報について全体では、「自分で情報収集に努める」と答えた者が39.5%と最も多く、特に博士課程者で高い傾向が見られる（クロス集計表4-5表）。

教育職、研究職を目指している者に、「博士課程修了後、何年位で教育職、研究職に就けるとお考えですか」と尋ねたところ、「3～5年」が29.7%と最も多く、次いで「見通しが立たない」28.5%が続いている（クロス集計表4-6表）。



工学1号館前の大銀杏

図6 就職希望職種（単位%）



1-5. 不安・悩み

- ・「将来の進路や生き方」に 82.3%の大学院学生が悩みや不安を感じている。
- ・「よく相談する相手」は友人が多く、大学の相談所や教職員は少ない。
- ・「経済的支援」を求める大学院学生が 83.7%に達した。

学生生活の中で悩みや不安を感じるものとして、大学院学生が「よく悩む」と答えた質問項目は、「将来の進路や生き方」が 49.6%で最も多く、「就職」42.3%、「経済的なことや経済的自立」36.0%、「勉学」26.1%が続いた。とくに「将来の進路や生き方」と「就職」については悩みを抱える大学院学生の割合が高く、「ときに悩む」を加えると「将来の進路や生き方」が 82.3%、「就職」は 75.6%に達した。

この質問項目に関して、修士課程と博士課程では顕著な違いは見られなかった。性別による違いについては、全体に女子学生の方が悩んでいる割合が高い。とくに、「勉学」「将来の進路や生き方」に関しては男女で顕著な差が見られる。「経済的なことや経済的自立」に関しては、文系の方が理系よりも悩んでいる割合が高く、顕著な差が見られる。また、とくに専門職学位課程の学生に「勉学」についての悩みを訴える割合が高かった。(クロス集計表 5-1-1~11 表)

不安や悩みの相談相手では、「よく相談する」かまたは「ときどき相談する」相手は、大学外の友人が 42.8%で最も多く、「学内の同じ学科や研究室の友人」38.9%、「父・母」38.2%、「恋人」34.3%が続いた。

「父・母」を相談相手とするかどうかについては、性別による顕著な差が認められ、女子学生の方が「相談相手とする」と回答した割合が高い。また、対照的に、相談する相手として回答されていた割合が低かったのは、「なんでも相談コーナー・学生相談所等」および「大学の教職員」であった。(クロス集計表 5-2-1~9 表)

最近6ヶ月の間に、体験したり悩んだりしたこととしては、「よく体験した」「ときに体験した」を合わせると、「強い不安に襲われた」は 58.4%、「気分が落ち込んだり、何も興味が持てなくなった」は 39.4%、「やる気がなくなり、無気力状態(アパシー)に」は 38.5%、「人と話していてとても緊張したり、不安を感じた」は同じく 38.5%、「つついっ過食してしまう傾向があった」は 31.7%であった。こうした体験に関しては、全体的に理系よりも文系の方が割合が高い傾向があるが、それぞれ顕著な差というほどではない。また、性別による違いは、全質問項目にわたって女子学生の方がこうした体験をしている割合が高いが、これも顕著な差と

いほどではない。(クロス集計表 5-3-1~12 表)

悩みや不安を解消するために大学の対応として望むこととして「全くそう思う」「まあそう思う」と回答した大学院学生を合わせると、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援」を求める声が 83.7%と群を抜いて多い。続いて、「就職指導や進路相談機能を充実」が 67.9%、「進学について相談機能を充実」が 58.6%、「健康相談や保健センターの機能を充実」が 55.4%、「学生同士のネットワークを強化」が 55.3%となっている。こうした要望に対して、性別、在学課程、文系・理系でのとくに顕著な違いは見られない。(クロス集計表 5-4-1~10 表)



三四郎池

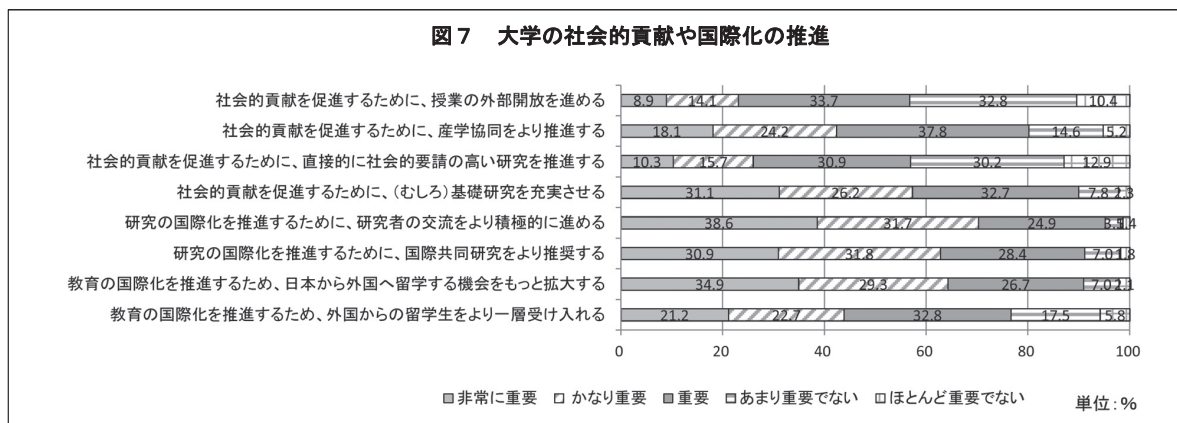
1-6. 大学への要望

- ・大学への要望としては、「奨学金などの拡充や増額」「オーバードクター問題やポストドク問題への対応」が最も高く（5割近くの学生）、「就職対策の充実」、「教室・研究室の充実」がそれに続いた。
- ・大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連事項は、「日本から外国へ留学する機会」「研究者交流」「共同研究をより積極的に」「基礎研究の充実」が9割前後と高かった。

大学院学生が大学に要望・期待することとして最も多く選んだ項目は、「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」48.8%、「オーバードクター問題やポストドク問題への対応」47.1%の2つである。これらは2004年の調査でも最も多く選ばれていたが、それぞれ38.6%、39.1%から10%程度増加していた。「オーバードクター・ポストドク問題」は特に博士課程の学生での要望が高く、67.8%に及んだ。この次に選択頻度の高かったのは「就職対策の充実」26.0%、「教室・研究室の充実」26.7%で、「図書館の充実」16.6%、「教育スタッフの充実」16.6%がこれに続いた。上位4項目中3項目は就職・経済問題に関連する項目が占めており、いずれも前回より選択者の割合が増加していた。これらに対して、「学生自治の尊重」、「学生自治に対する適切な助成と助言」を選んだ者はわずかに1.3%と0.9%で、時代の変遷を実感させる結果であった（クロス集計表 6-2 表）。

大学の社会的貢献や国際化を推進するための関連する項目については、「非常に重要」「かなり重要」「重要」

と評価した者の割合を合計すると、「研究者の交流を積極的に進める」95.2%、「国際共同研究をより推奨する」91.1%、「日本から外国へ留学する機会」90.9%、「基礎研究を充実させる」90.0%が9割前後と高く、「産学協同をより推進する」80.1%がそれに続いた。充実させたい研究の性格に関しては、「基礎研究」の約9割に対して、「直接的に社会的要請の高い研究の充実」は56.9%にとどまった。「授業の外部開放を進める」ことを重要と認識する学生は2004年度と同様比較的少なく、「あまり重要でない」「ほとんど重要でない」を合わせると43.2%に達した（2004年度は41.2%）（図7、クロス集計表6-1-1～8表）。



第2部 学生生活の背景

2-1. 家庭の状況

- ・実家の所在地は59.5%が関東、5年間で変化なし
- ・大学院学生のうち独身者は86.5%、既婚者は13.5%、子どもがいるのは6.7%
- ・父の職業は「専門的、技術的職業」が16.2%、「管理的職業」が15.1%、母の職業は「教育的職業」が8.7%

実家の所在地は、「東京都」25.3%、東京都以外の「関東」が34.2%、合計すると59.5%で、前回調査（2004年（第54回））と比較して0.5ポイント減少したが、ほぼ同じであった。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の57.5%に対し、女子は64.3%で前回調査と同様女子が男子を上回っていた。（図8-1～2、クロス集計表8-1表）。

大学院学生のうち独身者は86.5%（前回調査85.5%）、既婚者は13.5%となっていた（クロス集計表8-2表）。

子どもがいると回答したのは回答者の6.7%（男子6.5%、女子7.6%）であった。2人以上子どもがいる者は回答者の2.6%であった（クロス集計表8-3-1～2表）。

「子どもを保育所に預けていますか」の間に、「預けている」と33.3%が回答した。男女別でみると、前々回の調査（1999年（第49回））ではほとんど差がなかったが、今回も前回の調査と同様に、男子が16.1%に対して女子は71.4%で、大幅に女子が上回っていた。（クロス集計表8-4表）。

子どもの世話について男女別にみると、「自分」が主として世話をしていると回答した者は、男性の10.9%、女性の83.9%であり、「配偶者」が主として世話をしていると回答した者は、男性の87.5%、女性の12.9%であった。（クロス集計表8-5-1～2表）。

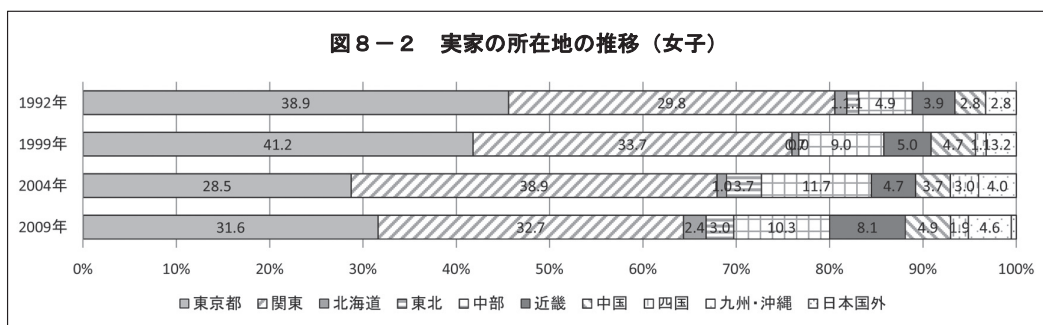
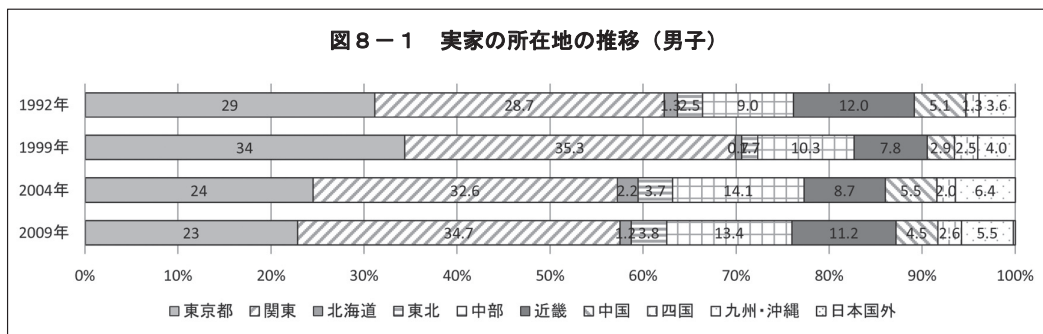
「あなたの家族は、あなたを含めて何人ですか」の間では、「4人」が29.6%（前回調査33.6%）ともっとも多く、「3人」の24.6%（前回調査21.8%）を合すると半数を超えた。これが既婚者のみでは、「2人」が42.4%、

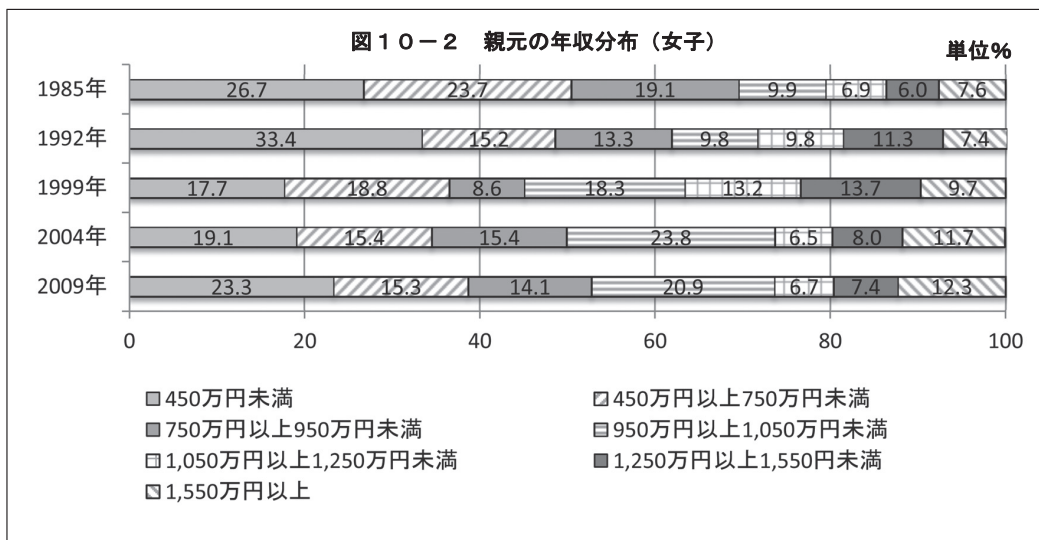
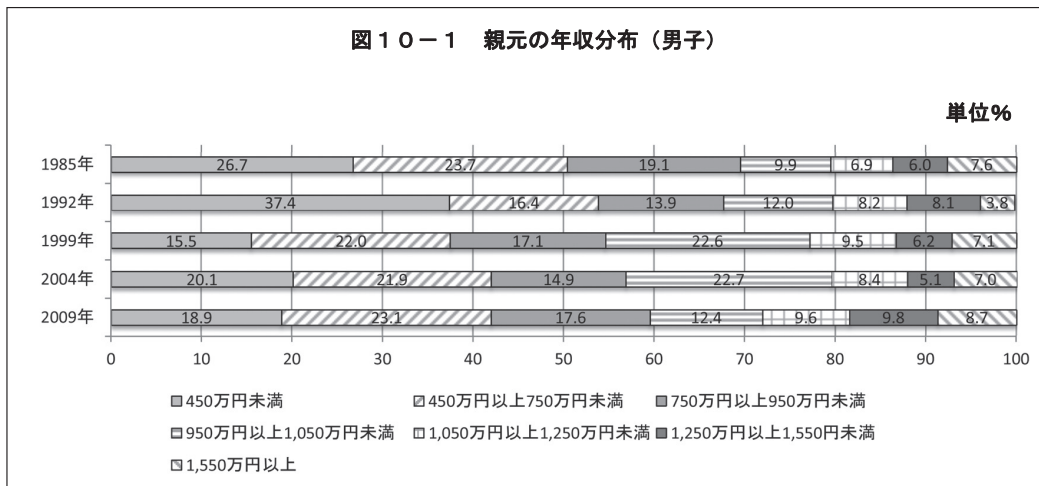
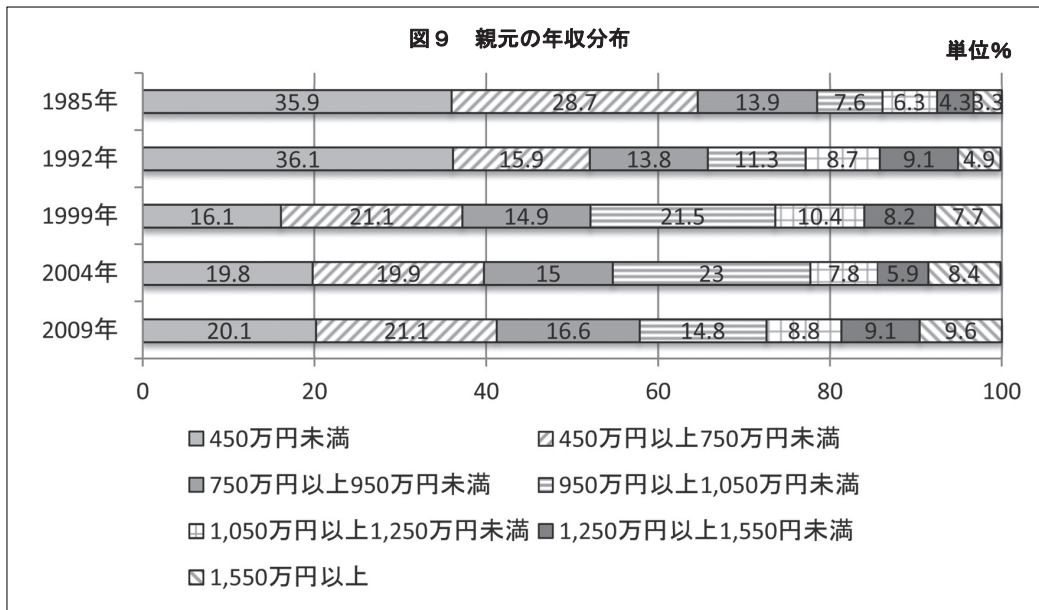
「3人」が32.2%を占めていた（クロス集計表8-6表）。

主たる家計支持者は「父」62.8%（前回調査66.2%）、「本人」31.2%（前回調査22.6%）、「母」21.5%（前回調査5.2%）の順となっていた。「母」が前回調査と比較して大幅に増加している要因は、今回調査より複数回答を可能としたためであろう。既婚者に限ってみると、「本人」66.1%、「配偶者」46.9%の順となっている。既婚者について男女別にみると、「本人」が主たる家計支持者であると回答した者は男子の87.6%、女子の27.0%であり、「配偶者」が主たる家計支持者と回答した者は男子の27.4%、女子の81.0%であった（クロス集計表8-7表）。

職業については、父は「専門的、技術的職業」が16.2%、「管理的職業」が15.1%、「教育的職業」が8.3%であった。母は「教育的職業」が8.7%、「事務」が7.2%、「専門的、技術的職業」が5.0%であった。なお、本人は「専門的、技術的職業」が7.9%、「教育的職業」が2.1%であった。（クロス集計表8-8-1～2表）

親元の年収（社会人入学者は自分）については、「1,050万円以上」が27.5%であった（前回調査22.1%）。ただし、この間への回答者は29.0%であり、「わからない」が26.2%、その他の44.8%は無記入であった。（図9、図10-1～2、クロス集計表8-9-1～3表）。





2-2. 生活費の状況

- ・生活費は修士課程 133,020 円、博士課程 177,730 円。
- ・収入は修士課程 136,890 円、博士課程 248,340 円。
- ・修士課程の収入は「仕送り」、博士課程の収入は「助成金」が最多。
- ・「助成金のみ」を収入として生計を立てるものが 15.3%と最多。

一ヶ月当たりの「支出総額」（100 円未満四捨五入）は月平均 156,500 円で、前回調査時（2004 年・第 54 回）と比較すると、7,400 円の増加となっている。修士課程在籍者 133,000 円、博士課程在籍者 177,730 円、獣医学または医学を履修する博士課程在籍者 243,970 円、専門職学位課程在籍者 178,300 円となっている。各費目の支出では、住居費が 48,600 円と前回調査時より 3,100 円増加しているほかは、大きな変動はみられない（クロス集計表 9-1-1 表）。

一方、「収入総額」（100 円未満四捨五入）は月平均 188,200 円で、前回調査時から 12,300 円の増加となっている。修士課程在籍者 136,890 円、博士課程在籍者 248,300 円、獣医学または医学を履修する博士課程在籍者 347,740 円、専門職学位課程在籍者 190,400 円となっている。収入源としては全体では「助成金・奨学金」が最多で 57,970 円（前回調査時より 3,400 円増加）、次いで「家庭からの仕送り小遣い」43,080 円（3,800 円減）、「定職」37,600 円（11,600 円増）となっている。課程別では、修士課程在籍者では「家庭からの仕送り・小遣い」が最多の 58,620 円であるが、博士課程在籍者と専門職学位課程在籍者では「助成金・奨学金」がそれぞれ 76,730 円、67,250 円で最多であり、特に博士課程在籍者では「学内研究経費等」（今回調査新設項目）による経費と併せると 119,630 円となり、前回調査時の「助成金」と比較すると約 34,000 円の増加となっている。獣医学または医学を履修する博士課程在籍者では「定職」が 123,530 円で最多となっている（クロス集計表 9-2-1 表）。

収入形態の分布では、「助成金のみ」が 15.3%で最多であり、次いで「仕送りのみ」15.1%、「仕送り+アルバイト・定職」13.4%、「仕送り+助成金」12.4%、「アルバイト・定職のみ」10.7%となっている（クロス集計表 9-4 表）。



文学部 3 号館附近

図 11-1

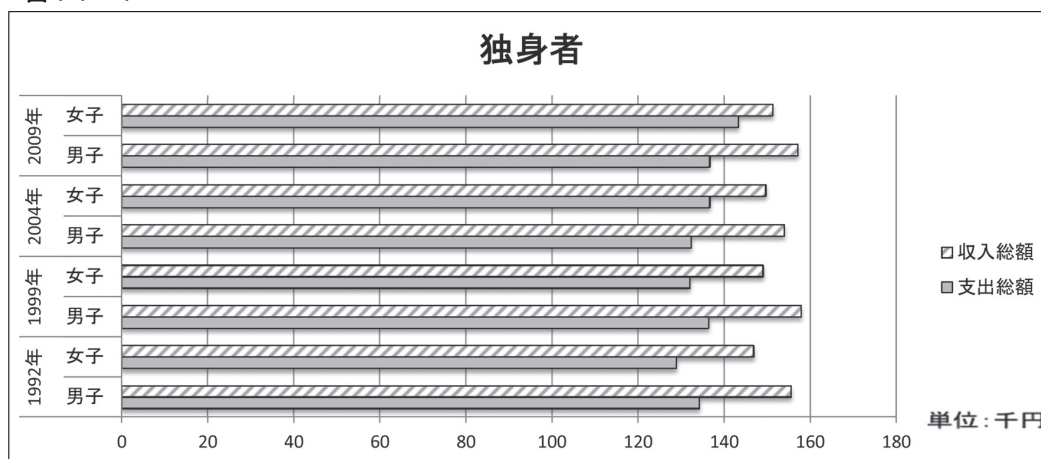
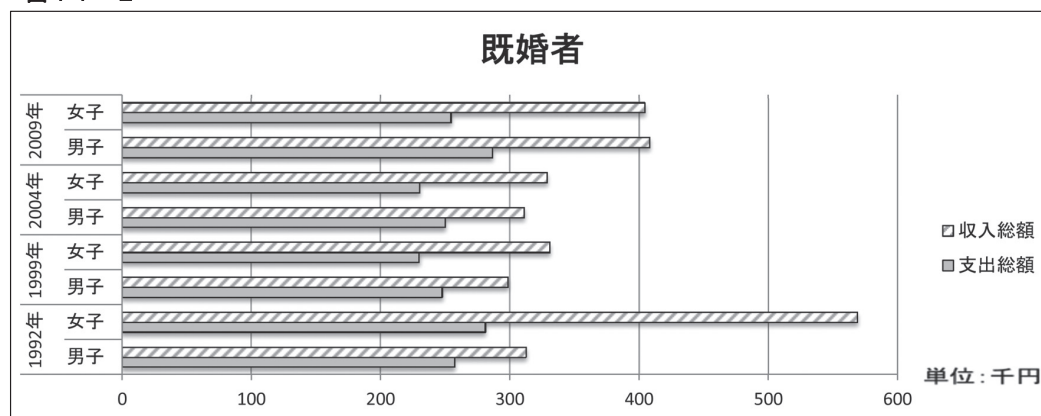


図 11-2



2-3. 研究奨励金及び奨学金

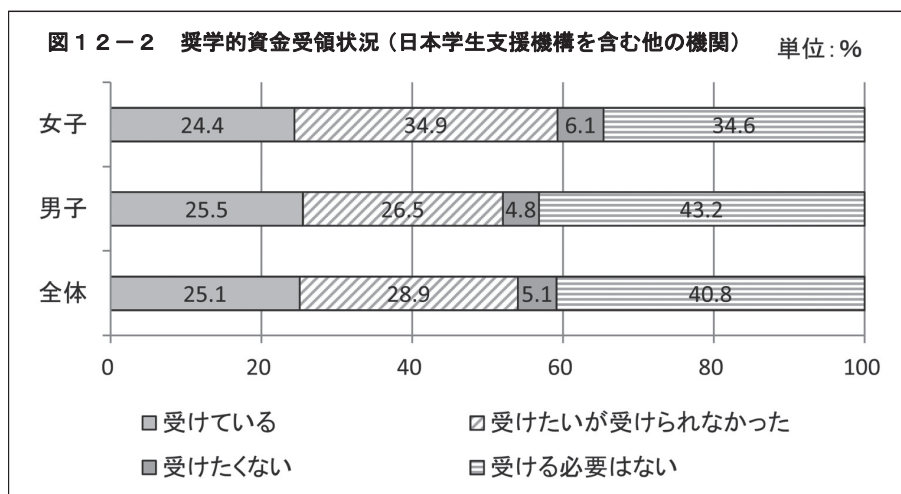
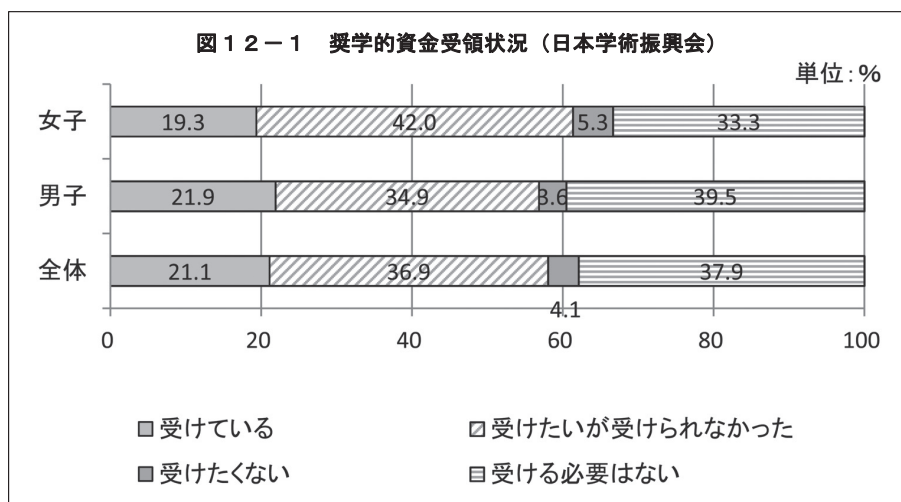
- ・奨学金利用学生のうち圧倒的多数は日本学生支援機構から貸与を受けている
- ・用途は「生活費」、「研究・勉学費」、「授業料」が中心

日本学術振興会の研究奨励金およびその他の奨学金の受領状況をみると、それぞれ 21.1%と 25.1%が受領している。男女差をみると、日本学術振興会で女性の受領者が多少少なく、19.3%、男性が 21.9%となっている。また、その他の奨学的な資金でも、男性 25.5%、女性 24.4%となっている。奨学的な資金を受けている者のうち日本学生支援機構が 66.1%、日本学術振興会が 21.1%となっている。また、日本学術振興会の研究奨励金を「受けたかったが受けられなかった」者は 36.9%、「受けたくない」とした者は 4.1%であった。一方、他の奨学的な資金では、「受けたかったが受けられなかった」者は 28.9%、「受けたくない」とした者は 5.1%であった。前回調査と比べて、日本学生支援機構の割合が低下し、日本学術振興会が増加している。その結果、日本学生支援機構と日本学術振興会を合わせた割合は、6%近く低下している。いずれにせよ、学生の得ている奨学的資金の多くは、この二つの組織からのものである（クロス集計表 10-1~2、4 表）。

一方、奨学的な資金を受けたかったが、「受けられなかった」あるいは「受けたくない」と回答した理由とし

では、「出願したが採用されなかった」が25.0%、「貸与なので申請しなかった」が17.5%、「事務手続きが煩雑だから」が7.8%であった（クロス集計表10-3表）。

奨学的な資金の主たる支出目的(3つまで選択可)は、「生活費(衣・食・住居費)」77.7%、「研究・勉学費」45.8%、「授業料」44.2% 「教養・娯楽費」21.4% 「貯金」11.8%の順となっている。前回調査と比べて「貯金」のみが9%増加し、あとの費目はあまり差はみられなかった（クロス集計表10-5表）。



学生支援センター（本郷キャンパス）1階
教育・学生支援部奨学厚生課
（奨学金、授業料免除、宿舎申請担当課）

2-4. アルバイト

- ・アルバイトをしている大学院学生が 58.5%
- ・アルバイトの種類は「TA・RA」、「塾・予備校の講師」、「家庭教師」が多い
- ・週に 12.7 時間、月額で 62,400 円
- ・アルバイトの主な目的は「生活費を稼ぐため」が最も多い

アルバイトをしていると 58.5%が回答しており、前回調査（第 54 回実態調査）の結果 72.1%に比べて大きく比率を下げていることが特徴的である。「継続的」（1 ヶ月以上）アルバイトをした者が 37.9%と多くなっている。これも前回調査の 50.1%に比べて低い数字となっている。男女別にみると、男子 57.1%に対し、女子は 61.7%で前回調査と同様若干ながら女子が男子を上回っている（クロス集計表 11-1 表）。

アルバイトの種類（2 つまで選択可）は、「TA・RA」（「TA」は Teaching Assistant の略、「RA」は Research Assistant の略）は 30.2%がもっとも多く、次いで「塾・予備校の講師」17.9%、「家庭教師」15.4%、「研究事務補助」12.2%の順となっている。しかし、前回調査結果では、「TA・RA」は男女別にみると、「TA・RA」は男子 31.8%、女子 26.6%でもっとも多く選択している（クロス集計表 11-2 表）。

アルバイトに費やした 1 週間当たりの平均時間は、12.74 時間で、これは前回の調査結果 12.3 時間とあまり大きな変化はない。しかし、1 か月当たりの平均収入額は 62,400 円となっており、前回調査結果の収入額 68,900 円よりも約 1 割下がっている。（クロス集計表 11-3 表）

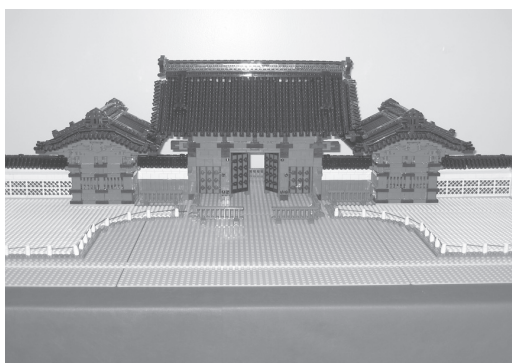
アルバイトの紹介者（2 つまで選択可）は、「友人・知人等」36.3%、「インターネット」24.1%、「指導教員」21.5%、「アルバイト先と直接」16.1%と続いていて、インターネットが高い割合を示しているのが特徴である。（クロス集計表 11-4 表）。

アルバイトをした理由では、「生活費を稼ぐため」と回答する者が 53.3%と過半数を占めており、また「奨学金を稼ぐため」15.8%を合せると、約 7 割に達する（クロス集計表 11-5 表）。

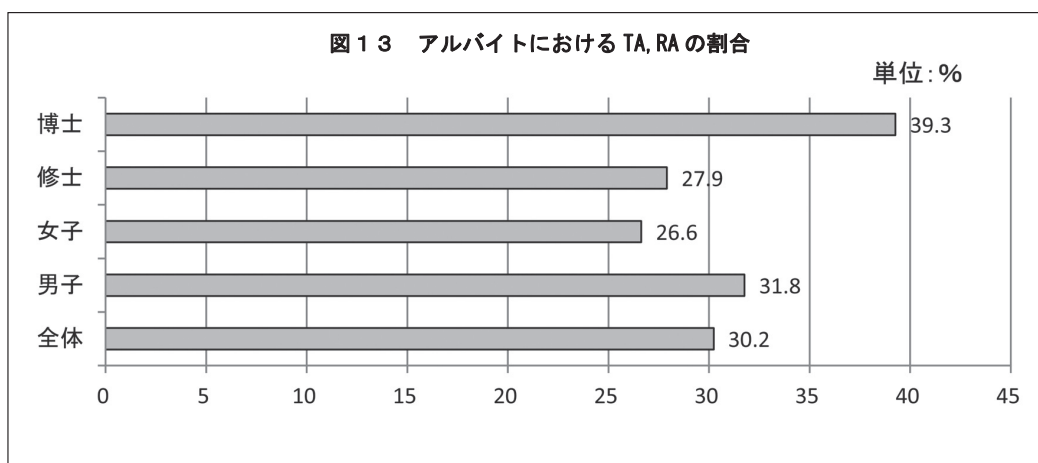
アルバイト収入の主たる使途（2 つまで選択可）は、「生活費（衣・食・住居費）」が 62.8%でもっとも多く、次いで、「教養・娯楽費」37.7%となっている（クロス集計表 11-6 表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんでしたか」という問い、「多少妨げになった」41.0%（前回調査 45.0%）、「かなり妨げになった」12.8%（前回調査 9.6%）の回答があり、双方合せると 53.8%（前回調査 54.6%）を占めた。前回調査 54.6%と比べてあまり変化はないが、「かなり妨げになった」と答えている割合が増えるなど、依然と勉学への影響を及ぼしているようである（クロス集計表 11-7 表）。

現在の暮らし向きについては、「かなり楽な方」及び「やや楽な方」と答えた者は 33.5%で、前回調査結果 32.6%に比べてやや上昇している。しかし、「やや苦しい方」及び「大変苦しい方」と答えた者は 30.2%であり、前回調査の結果 29.9%に比べて少し上昇しており、依然として 3 割近い比率の大学院学生が生活が苦しいとかんじていることが読み取れる。（クロス集計表 11-8 表）



レゴ部作製「赤門」
展示場所：学生支援センター（本郷キャンパス）
B1 学生ギャラリー



2-5. 研究・学生生活のサポート体制

2-5-1. 研究・学生生活のサポート体制

- ・「通学所要時間」は平均 46.3 分
- ・利用者の各施設・設備への満足度は高いが、「研究科内の学生控え室・談話室・ラウンジ」に関しては、不満の方がやや高い。

通学・住居に関する調査はこれまで数回行っているが、3つのキャンパス（本郷、駒場、柏）とその他へそれぞれ通う大学院学生に、各キャンパスへのアクセスについて、どう考えているのか、聞いたものである。また、前回調査に引き続き、学内諸施設に対する設問を設けた。

2-5-2. キャンパスへのアクセス

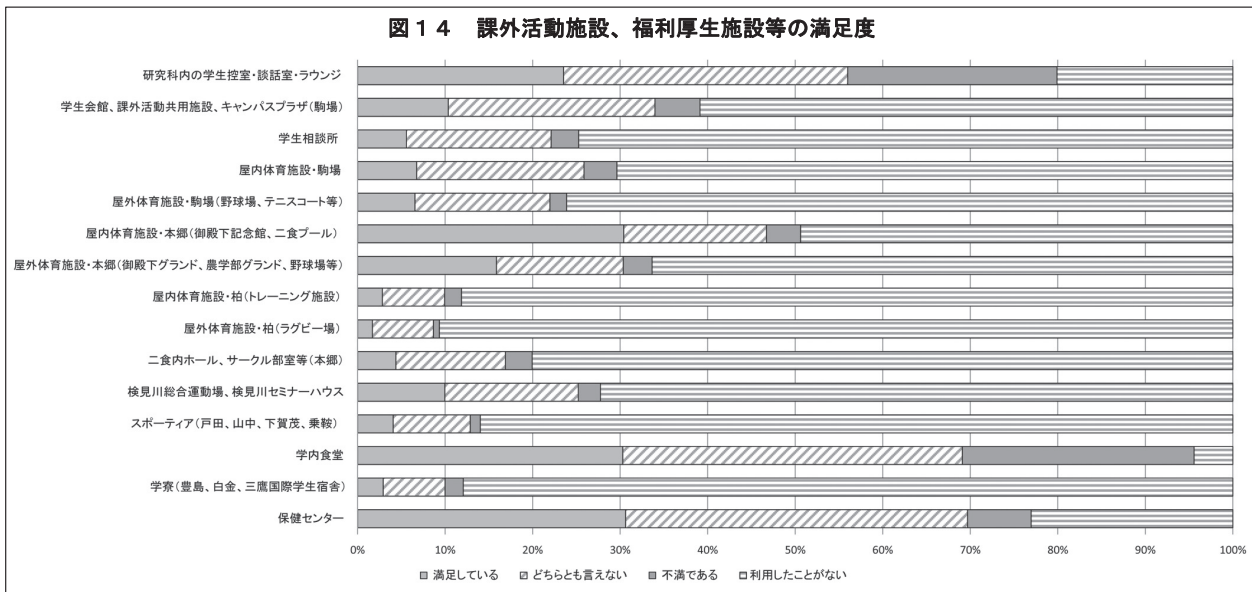
通学に利用している交通機関（複数選択）は、前回調査（1999年（第49回））では主たるものを移動時間の多い順に2つまで選択可としていたが、結果は前回と同様に「電車」が62.9%でもっとも多く、次いで「自転車」39.6%、「バス」10.3%、「徒歩のみ」8.5%の順となっている。キャンパス別で見ると、「本郷」は「電車」と「自転車」「バス」が多く、「駒場」は同様な傾向にあるが、「柏」は「自転車」62.5%がもっとも多く、また「バス」26.9%、「自家用車」13.8%、「バイク」5.0%の利用が、他キャンパスよりも高い（クロス集計表 12-1 表）。

通学所用時間は、片道平均 46.3 分で前回調査（45.9 分）より少し長くなっている。キャンパス別では、「柏」への所用時間が 44.7 分でもっとも短く、「駒場 II」が 44.9 分とほぼ等しく、「本郷」が 46.1 分、「駒場 I」が 49.6 分と最も長くなっている（クロス集計表 12-2 表）。

2-5-3. キャンパス内の諸施設

本学の課外活動施設、福利厚生施設等の満足度を全 15 項目について聞いたところ、図 14 のように、研究科内の学生控え室・談話室・ラウンジに関しては、満足 23.5%に対して不満の方が 23.9%と多くなっている。この項目を除いていずれの項目も「満足している」が「不満である」を上回っている（クロス集計表 12-3-1 表）。

ただし、研究科内の学生控室・談話室・ラウンジを除いて、いずれの項目も利用したことがない者が多くを占めている。



学生支援センター(本郷キャンパス)
1階 学生ラウンジ

〔特殊分析の試み〕

大学院学生の不安・悩みについて

はじめに

今回の特殊分析では、前回の大学院学生を対象とする調査（2004年）では含まれなかった、「不安・悩みについて」を取り上げる。質問項目の概要は、1) どのような領域で悩みがあるか 2) 悩みを誰に相談するか、3) 広義のストレス反応を体験しているか 4) 大学に対してどのような対応を望むか、の4項目としてまとめられる（項目番号では、40-43）。以下、それぞれについて、検討してみよう。また、ここでは自由記述で書かれていたことも一部参考にして考察する。

1) どのような領域で悩みがあるか

ここでの質問は、「現在の学生生活のなかで、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか」というものである。項目は「その他」を含む12項目で、11項目は「よく悩む」「ときに悩む」「あまり悩まない」「全く悩まない」のどれかをマークする形式である。以下に、「よく悩む」と「ときに悩む」の合計%を指標に検討してみよう。

11項目中、合計%が最も高かったのは、「将来の進路や生き方」で82.3%である。これは、「就職」75.6%、「経済的なことや経済的自立」71.1%と密接な関係があるだろう。この数字は、東大の大学院学生も就職難に直面し、特に研究者を志望する学生は将来の生活設計が思うように描けないという現実を如実に反映しているのではないだろうか。この傾向は近年、とくに顕著になってきたように思われる。

将来設計は、「勉学」58.2%、さらには、「人生の意義・目標」56.9%、「性・異性・恋愛・結婚」51.3%、「進学」40.2%とも関係しているだろう。「勉学」の悩みは、研究成果が思うように出ないときに顕著になりやすい。研究能力の悩みは進路の選択に直結し、修士課程から博士課程に進学するかどうか、他の研究分野や大学院に移るかどうかで悩んだり、博士号取得が3年間で難しいと感じたとき、何歳まで挑戦するか、退学して就職するかなどのようなところにするかで悩む学生もいる。

「性・異性・恋愛・結婚」で悩む学生は半数を超えている。大学院学生では、恋人ができないと悩む学生もいるだろうが、恋人ができて結婚まで視野に入れたときに、結婚して経済的にやっていけるか、子どもをつくるか、相手と同居できるかといった問題に直面する学生もいる。

自分の「性格」46.0%や「体調や健康」44.1%で悩む者も少なくない。「教職員との対人関係」37.2%は、「友人との対人関係」28.8%よりも高い。

ちなみに、2008年に行われた学部学生対象の調査では、同様の質問に対して、「よく」または「ときに」悩む学生は、「将来」82.5%、「就職」68.2%、「勉学」66.9%、「経済」65.1%、「人生」61.1%、「異性」60.4%、「進学」58.2%、「性格」57.2%、「体調」38.3%、「教職員との関係」9.8%、「友人との関係」44.1%となっている。両者とも「将来」「就職」「経済」「勉学」、あるいは、「異性」「人生」等で悩む者が多い。

また、両者の差が比較的大きい項目を見ると、大学院学生は学部学生よりも、「教職員との関係」に悩む人の割合が多い。大学院では、研究室のスタッフ、とりわけ指導教員との関係が非常に重要になるので、そこでストレスを感じる人も増えるのだろう。一方、「進学」「友人との関係」については、大学院学生の方が悩む人の割合が少ない。東大では、学部学生の進学の悩みは進学振り分けにからんで生じることが多いのでこのような差が生じるのかもしれない。また、友人関係は学部時代に模索し、大学院時代にはむしろ少数で安定しているのかもしれない。それでも4人に1人は悩んでいることになる。

2) 悩みを誰に相談するか

不安や悩みを感じたときの相談相手として選ばれているのは、「大学外の友人」が42.8%が最も多く、「同じ学科の友人」38.9%、「父母」38.2%、「恋人」34.3%、「先輩」33.1%が続き、「サークルの友人」18.2%、「兄弟・姉妹」15.1%、「大学の教職員」11.8%、「何でも相談コーナー、学生相談所」3.0%の順になっている。相談相手には友人や恋人、先輩が選ばれるだけでなく、大学院学生でも親に相談するケースがけっこう多いことがわかる。専門の相談機関は、むしろ、そういう相手では十分対応できないときに利用されるのではなからうか。

3) 広義のストレス反応を体験しているか

ここでは、いくつかの項目をたてて、広義のストレス反応（あるいは「メンタルヘルス」）に関連するような体験について、「よく体験した」「ときに体験した」「あまり体験しなかった」「全く体験しなかった」の4件法で問うている。以下に、「よく体験した」と「ときに体験した」の合計%を提示して検討しよう。

「強い不安」58.4%。この数値は、けっこう高いように見えるかもしれない。しかし、東京大学の大学院学生であっても、数年で世界の最先端の水準に到達できるかどうか、学位がとれてもその先に望ましい就職先があるかどうかなどと考えだすと、ときに強い不安に襲われる人も多いのではないだろうか。

「鬱状態」39.4%。保健センター精神科や学生相談所を訪れる学生のなかには、鬱病や鬱状態の人がかなり多い。東大の大学院学生では、これまでの人生で初めて学問領域で能力の限界を感じたり、教員にひどく叱責されたりしたことがきっかけになって、鬱状態になる人もいる。

「無気力」38.5%。この項目は、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」と記述されているので、典型的な鬱病の周辺領域といったニュアンスで捉えられたと思う。ちなみに、いわゆる「スチューデント・アパシー」とは、専門分野の研究意欲は低下するが、アルバイトやサークル活動は続けられるとか、専門以外の分野には興味ももてるといったケースを言う。いずれにせよ、本人はこうした状態に苦しんでおり、怠けているように見えても、安逸をむさぼって楽しんでいるわけではない。

「対人場面での不安・緊張」38.5%。学会発表や論文審査などの場では、ある程度、緊張することは自然だろうが、研究室での日常会話や懇親会での雑談などでもかなり強い不安や緊張を感じる学生がいる。特に、自分にはいわゆる「コミュニケーション能力」が乏しいと感じて苦しんでいる学生もいる。

「過食」31.7%。ここには「過飲」は含まれていないが、この項目を「つつい食べ過ぎたり、飲み過ぎたりしてしまう傾向があった」とすれば、この数字はもっと高くなるだろう。ストレスを一時的に麻痺させたり緩和したりするために食べ過ぎたり飲み過ぎたりすることは、かなり一般的に認められるのではなからうか。しかし、大量に食べた後で、意図的に嘔吐したり、毎日かなりの量のアルコールを摂取するようなケースでは、何らかのケアがなされる必要があるだろう。

「強迫観念・強迫行為」31.0%。東大の大学院学生や学部学生のなかには、完全主義の人がけっこう多いように思われる。研究を進める際には、ある程度、強迫的に取り組む必要が出てくることもあるだろう。けれども、ささいなことや非合理的な考えにとらわれて、日常生活に支障が及ぶのは、やはり問題である。

その他、「人と一緒にいてもさびしい感じがする」28.6%、「イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたい衝動にかられた」25.2%、「他の人が自分に敵意を持っている、人から監視されている」16.2%などといった体験をしている学生もいる。熾烈な競争原理に支配されがちな環境では、このような体験が生じやすいかもしれない。

また、「食欲不振」16.4%、「（身体疾患によらない）息切れ・めまい・動悸」15.5%、「乗物恐怖」5.3%を体験した人もいる。

4) 大学に対してどのような対応を望むか

以上のような悩みや不安を感じたとき、大学院学生は、大学に対してどのようなことを希望するのだろうか。ここでも、「全くそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のうち、はじめの2つの合計%が高い順に並べてみよう。

「奨学金、授業料免除などの経済的支援」83.7%

「就職や進路相談機能の充実」67.9%、

「進学についての相談機能の充実」58.6%

「健康相談や保健センターの機能充実」55.4%

「学生同士のネットワーク作りの強化」55.3%

「学生相談やカウンセリング機能の充実」52.5%

「教職員と接触する機会を増やす」44.4%

「学習に関する相談機能の充実」43.5%

「教務課や学生課などの機能充実」31.3%

「クラス担任やチューター制度」26.3%

以上の結果を、自由記述欄に記載されたことと照らし合わせてみると、まず、相当多数の学生が経済的問題に直面していることがわかる。学費や生活費を捻出するのが困難で、かなり切り詰めた生活をしたり、アルバイトのために研究時間が縮小されて苦しんでいる学生もいる。授業料免除や奨学金制度の充実を求める声は切実である。経済的問題は、就職の問題とも直結している。2年間で修士号が、3年間で博士号がとれるだろうか、それ以上の年数がかかった場合は経済的にやっていけないのではないか、大学院を中退した場合には就職先がないのではないか、あるいは、博士号がとれても望むような就職先があるだろうか、安定したポストに就職できない期間に奨学金の返済を迫られたら、経済的にはどう立ちゆかせればよいだろうか、などといった苦悩に苛まれている大学院学生はかなり多いように思われる。

また、研究環境や人間関係で悩む大学院学生も少なくない。とくに、大学院になると、研究室での人間関係が密になる（しかも、十分なサポートが得られないことがある）ので、劣等感や疎外感を感じたり、教員からアカデミック・ハラスメントを受けたと感じて、苦しんでいる人もいる。

これらのストレスから、心身の不調が生じている人も、かなりいるのではないだろうか。

もとより、不安や悩みがなくなることは期待できないが、以上の結果に鑑みれば、本学では、さらなる経済的支援策を検討し、大学院学生が将来設計しやすいシステムを整え、学生相互のネットワーク作りや各種相談機能の充実も図って、大学院学生達が身体的にも精神的にも健康な状態で研究生活を送れるように配慮することが、喫緊の課題の1つになっていることは確かだろう。

〔総合分析の試み〕

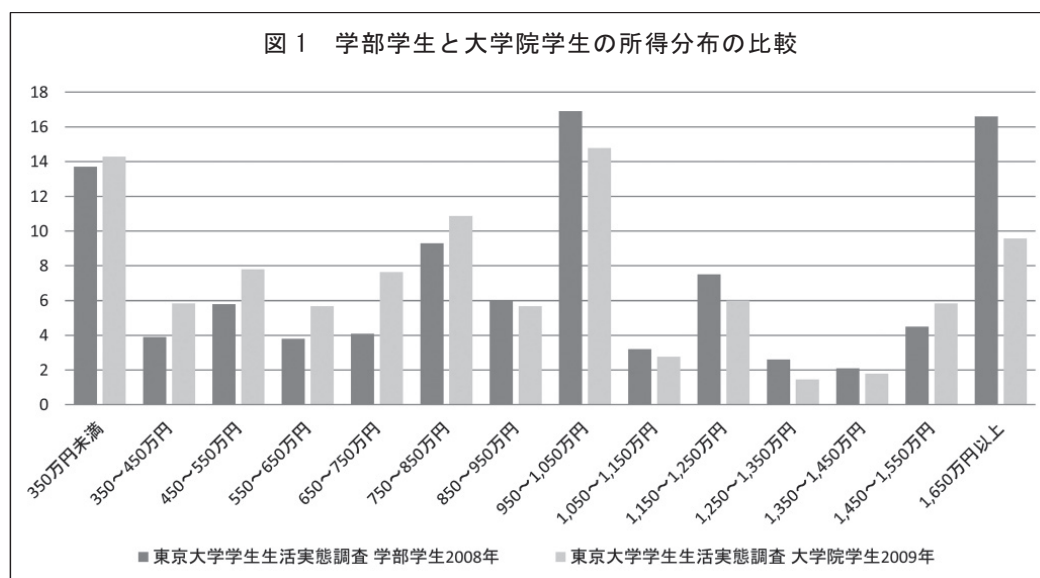
ここでは、「学生生活実態調査」の第59回（2009年）から、いくつかのトピックを選び、その総合的な分析を概観する。ここまでの分析は、質問項目の属性別分析を中心としていたのに対し、ここでは、質問項目間の関連などを分析の対象とする。より詳細な分析は、大学総合教育研究センターによってまとめられ、東京大学広報の特集として、刊行されるので、そちらを参照いただければ幸いである。

1. 所得階層別分析

1-1. 大学院学生の所得階層別分布

所得階層別の在学状況は、高等教育機会の均等の状況を示す重要なデータである。大学生が在学すると想定される世帯主年齢が45-54歳世帯（以下、一般世帯と呼ぶ）の所得分布（総務省統計局「家計調査」2009年度と、学生生活実態調査による東京大学の大学院学生の親元の所得分布を比較すると、明らかに、東京大学の大学院学生の所得分布は1,500万円以上の高所得層が多くなっているが、900-1,500万円は一般世帯より少ない。また200万円未満の低所得層も一般世帯より多いという分布になっている。このように、高所得層が多いことも否定できないが、中高所得層ではむしろ一般世帯より少ない。

学部学生の2008年度の調査結果と比較すると図1のように、1,450-1,550万円を除き、850-950万円より1,550万円以上のすべての層で学部学生の方が多くなっている。逆に、850万円未満のすべての所得階層で、大学院学生の方が多くなっている。このように、学部学生と比較すると、大学院学生の所得階層の方が低くなっていると言える。



日本学生支援機構の「学生生活調査」は、東大生も含む、日本の大学院学生の親の所得を示している。2006 年度調査の結果と比較しても、東京大学の大学院学生の親の所得分布はやや高所得層が多いものの他の大学の大学院学生とそれほど違うわけではない。さらに、修士課程、博士課程、専門職課程別に見ても、同じ傾向が確認できる。

1-2. 本学を選んだ理由

所得階層別の相違として注目されるのは、所得階層が低いほど、本学を選んだ理由として、経済的理由をあげている傾向がみられることである。所得 450 万円未満の層では 15.3%が経済的理由をあげているのに対して、所得 1,250 万円以上の高所得層では、6.1%と約3分の1に過ぎない。これは、低所得層にとっては、授業料が安い国立大学ということが、本学を選択した理由になるのに対して、高所得層では、それほど大きな選択の理由にならないためとみられる。

1-3. 学費・生活費と暮らし向き

学費・生活費の収入計については、むしろ所得階層による差が見られないことが注目される。これは、家庭からの仕送り以外の様々な収入源（日本学術振興会、日本学生支援機構、アルバイトなど）から、収入を得ているためである。これらの個別の収入源についても、家庭からの仕送りを除いて、所得階層による有意な差はみられない。

アルバイトをした理由について、学生生活を楽しむためと答えた者は所得階層が低い者ほど少ない(450 万円未満 4.1%、1,250 万円以上 20.8%)。また、アルバイト収入の用途についても、教養・娯楽費は、低所得層ほど少ない傾向がある(450 万円未満 9.3%、1,250 万円以上 47.2%)。このように、アルバイトの理由や用途に関しては、所得階層による相違が見られる。

最後に暮らし向きについては、低所得層ほど厳しいという答えが多くなっている。450 万円未満の低所得層では、「大変苦しい方」と「やや苦しい方」を合わせて 51.3%と半数以上を占めているのに対して、「かなり楽な方」は 5.8%と1割にも満たない。これに対して、1,250 万円以上の高所得層では、「かなり楽な方」が 29.1%で、「大変苦しい方」が 4.5%と、ほぼ逆の傾向を示している。

2. 留学経験とその影響について

2-1. 留学経験の規定要因分析

大学院学生で留学経験のある者（以下、留学経験者）は、修士課程では 1.6%、専門職課程では 1.8%、獣医学課程では 2.6%に過ぎないが、博士課程では、14.7%とかなりの者が留学を経験している。また、学年があがるにつれ、留学経験者は増加し、1年では 2.6%にすぎないが、5年生では 25.0%と4分の1、6年生では 55.6%と過半数が留学を経験している。さらに、博士課程について、大学院入学以前の出身大学等別にみると、本学の出身者では、留学経験者 18.6%と多くなっているが、他大学の大学院学生の場合には 8.7%と約半分になっている。また、社会人の場合にも 1.7%と少なくなっている。ただし、こ

これは博士課程の学生の場合のみで、修士課程ではこうした出身大学別には有意な差はみられない。

さらに、現在所属する大学院を選ぶ際に、他の進路として外国の大学院を考えた者は、留学経験率が17.8%と高いのに対して、ない者は5.4%となっている。また、大学院に入学した目的として、大学等の研究・教育職を目指した者は留学経験率が11.3%とそうでない者の3.8%に比べ著しく高くなっている。

2-2. 留学経験の影響

留学経験が学生生活に及ぼす影響として、次の4点をあげることができる。留学経験者は未経験者と比べ以下のような特徴がある。

(1) 留学や国際交流に積極的である

留学経験者は、さらに留学をしたいという希望を持つ者（「留学したい」と「どちらかといえば留学したい」の計）が81.8%と多く、「留学したくない」と答えた者は、わずか1.2%にすぎない。他方、留学経験のない者では、留学希望は66.6%で、「留学したくない」と答えた者も12.6%と多くなっている。留学経験は、さらなる留学希望を促進すると言えよう。

(2) 学生生活は、真面目で学術的である

留学経験者は、研究・勉学費に月額3.2万円と、留学未経験者の1.3万円に比べ、かなり多く支出している。ただし、留学経験者は学年があがるにつれて多くなることから、この差は学年による差である可能性がある。学年があがるにつれて、研究・勉学費も多くなるからである^{※1}。そこで、重回帰分析によって、学年をコントロールしても、特に、留学経験者は、留学経験のない者より、研究・勉学費に多く支出していることが確認できる。

※1 実際、研究・勉学費支出は学年があがるにつれて、増加している。

(3) 将来は、教育職・研究職志望が多い

大学（短大、附置研究所）の教育職・研究職、大学以外の教育職、国公立研究機関（独法を含む）の研究職、国・地方公共団体の研究職・技術職のいずれも、留学経験者の方が、進路希望では高くなっている。留学経験者は、研究・教育志向が強いことが、将来の進路希望にもあらわれていると言えよう。

(4) 生活には経済的に不安をもっている

経済的なことや経済的自立について「よく悩む」者は留学経験者では、50.0%であるのに対して、留学経験のない者では、34.8%と少なくなっている。これに対して、「全く悩まない」者は、留学経験者では、4.7%に対して、留学経験のない者では7.4%と多くなっている。

ただし、これらの傾向については、さらに多変量解析で検証すると、必ずしも有意なものだけではない。今後さらに分析を進めていく必要がある。

3. 大学院学生の就職に関する悩みについての分析

今回の調査を通じて、大学院学生の学習生活の中で悩みや不安を感じるものとして、「就職」について「よく悩む」と「ときに悩む」の回答者は合わせて3分の2を超えている結果となっている。本稿は、就職に悩みを抱えている学生の特徴および関連要因を明らかにしようと試みた。その結果、いくつかの見聞

を得られた。

3-1. 学生の属性から見られる特徴

まず、学生の属性から次のような特徴が見られた。

「就職」について「よく悩む」の回答は、女性 48%、男性 39%で、女性の方の割合が高い。また、年齢別で見れば、「よく悩み」の割合と「ときに悩む」の割合は同じく、「24～26 歳」を除けば、基本的に年齢の増加に従い、減少する傾向となっている。しかし、学年別にみれば、「よく悩み」の割合が最も高いのは6年(66.7%)で、続いて、比較的に高いのは5年(51.9%)、1年(48.3%)、3年(46.4%)の順である。博士・修士課程の標準終了後の学年及び大学院初年の学生の就職について悩む割合が高いことをうかがえる。

課程別で見ると、獣医学又は医学を履修する博士課程の学生の「良く悩む」の割合は一段と低い。「ときに悩む」割合も他の課程の学生より低い。

「社会人の経験の有無」については、修士課程の場合は、「いいえ」(経験のない人)は、「良く悩む」44.6%、「ときに悩む」34.6%で、いずれも最も高い割合を占めている。これに対して、「現在は社会人生活と学業を両立させている」学生の方は「良く悩む」割合が最も低く(6.7%)、「全く悩まない」割合が圧倒的に高い(36.7%)結果である。

博士課程の場合を見てみると、修士課程と同じ傾向が見られた、すなわち「いいえ」(経験のない人)は、「良く悩む」、「ときに悩む」割合はいずれも最も高い。これに対して、「現在は社会人生活と学業を両立させている」学生の方が「良く悩む」割合が最も低く、「全く悩まない」割合が圧倒的に高い(48.8%)結果である。

所属研究科別からみると、「良く悩む」との回答が50%を超えたのは人文社会系研究科(55.1%)、総合文化研究科(52.8%)、農学生命科学研究科(50.5%)である。しかし、ここでは、学年などの要因をコントロールしていないことを留意すべきである。

3-2. 大学院入学の目的・理由との関連

(1) 大学院入学の目的

就職に関する悩みと大学院入学の目的との関連について回帰分析を行った結果就職に関する悩みに、「大学等の研究・教育職をめざして」「企業の研究職をめざして」の項目はマイナスの有意相関、「現在の仕事に生かすため」、「学位を取得するため」とプラスの有意相関を持っている。すなわち、前者の二つの目的を持って大学院入学した学生は悩みが少ない、後者の二つの目的を目指す学生は悩みが少ないと推察できる。

就職に関する悩みと大学院入学の理由との関連を見てみると、「スタッフ・環境・設備」、「将来の進路」、「経済的理由」を大学院入学の理由とした学生は就職に関する悩みが少ないという結果になっている。

3-3. 自身の研究成果についての満足度との関連

就職に関する悩みと、「自身の研究成果についての満足度」との関連を見てみると、自身のこれまでの研究成果に「満足」するほど「良く悩む」の割合が低い、逆に「不満」するほど「良く悩む」の割合が高

い。また、自身のこれまでの研究成果に「満足」、「まあ満足」と回答する者は、「全く悩まない」、「あまり悩まない」の割合も高い。

3-4. 将来の就職希望・就職の見通しとの関連

(1) 将来の就職希望

就職に関する悩みを従属変数、希望する就職を独立変数にして回帰分析を行った結果、「国公立研究機関（独法を含む）の研究職」、「企業の一般職」は統計的に有意なマイナス相関、「専門職 ※大学教員や研究職以外（弁護士、公認会計士、税理士、医師）」は統計的に有意なプラスの相関となっている。すなわち、前者の就職希望の方が就職に関する悩みが少ないのに対して、後者の就職希望を持つの方が就職に関する悩みが高いという傾向を見られる。

(2) 就職の見通し

就職の見通しについて「かなり厳しいと思っている」、「見通しが立たない」を回答する者は、就職について「良く悩む」の割合はそれぞれ 69.7%、66.1%となっており、「既に就職が決まっている」、「決まっていないが、見通しは明るい」の回答者のその割合の 22.9%、14.3%より圧倒的に高い。「全く悩まない」の回答者の割合が、「既に就職が決まっている」は 24.0%、「決まっていないが、見通しは明るい」は 12.2%で、「何とかなると思っている」(5.7%)、「かなり厳しい」(1.3%)、「見通しが立たない」(2.6%)より、一段と高い。

3-5. 期待する大学の対応

就職に関する悩みと期待する大学の対応の回帰分析の結果は、「就職指導や進路相談機能を充実」、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援」が統計的に有意なプラスの相関となっている。すなわち、この二つの項目は「就職に関する悩み」の対応策として期待されている。逆に「学習方法や学習内容について相談機能」は統計的に有意なマイナスの相関で、「就職に関する悩み」を解消するために大学の対応として期待されていると解釈できる。

4. 学生の年齢構成および社会人学生に着目した分析

近年の就職状況は決して好転しているとはいえない。このような中で、高年齢に達した学生においては、生活上の問題や困難、あるいは不満や不安といったものがある。また、近年、社会人学生の受け入れが進んできている。彼/女らも年齢構成としては、高い層に位置づくと考えられるが、フルタイム学生と違った生活意識を有している。ここでは、こうした学生の年齢層と社会人の特徴を分析する。

4-1. 年齢構成による類型の作成

本稿では、年齢構成を軸に学生を分類するにあたり、獣医・医学系の大学院、専門職大学院の学生を別

枠とした(それぞれNの値が38と106と小さいため、年齢構成で分けずにこのまま用いることとした)。それ以外の学生についてまず修士課程、博士課程に分けた後、修士課程については、21～23歳、24～26歳、27歳以上、そして社会人学生という4類型を設定した。

修士課程、博士課程ともに共通して、高年齢学生において女性の比率が大きくなる傾向がみられる。修士課程では、21～23歳および24～26歳では男性比率が約75%に達しているが、27歳以上で52.9%にとどまる。博士課程でも、24～26歳および27～29歳では72～73%台となっているが、30～32歳では60.3%、33歳以上では47.4%にとどまっている。社会人学生の男性比率は、修士課程、博士課程ともに77.4%、75.6%となる。

4-2. 暮らし向き

暮らし向きについて、各類型毎に「かなり楽な方(ほう)」と「やや楽な方」の合計を示すと、修士課程では、21～23歳で42.0%、24～26歳で37.2%、27歳以上で15.4%と数値が減少する。博士課程でも同様の現象がみられ、24～26歳で35.1%、27～29歳で29.0%、30～32歳で23.3%、33歳以上で14.3%となっている。男性では、修士課程・博士課程ともに、高年齢になるほど暮らし向きが楽でなくなる傾向がみられた。これに対して女性では、これほどはっきりした傾向がみられるとはいいがたい。社会人学生をみると、博士課程の男性は「かなり楽な方」と答えた割合が7.1%と低い水準にとどまる。その背景としては、大学院においては、年齢が上がるにつれて、経済的な支えの一つである奨学金の受給を受けにくくなるという現象があると考えられる。一方、女性の場合は、結婚等経済的安定を得ているのだろうか、「かなり楽な方」の割合が21.1%にのぼっている。

4-3. 就職の見通しと大学への満足度

就職の見通しが「明るい」および「何とかなる」の合計をみていくと、高年齢学生でこうした明るい将来展望を抱く割合が減少している。修士課程では、年齢とともに漸減し、21～23歳で48.2%、24～26歳で45.0%、27歳以上で43.5%となっている。博士課程ではより顕著な傾向がみられ、24～26歳で43.2%、27～29歳で38.5%、30～32歳で31.8%、33歳以上で25.7%と年齢とともに大きく落ち込む。また、大学にたいする満足度をみていくと、研究設備、研究上の経費ともに、高年齢学生ほど満足度が低くなるのがみえてきた。ただし、研究室の人間関係や指導教員の研究指導方法については、高年齢学生で満足度が低いというわけでないことに注意されたい。ここで押さえておくべきは、社会人学生の満足度の低さである。研究設備や研究経費をみると、とくに修士では他の類型より研究設備では25ポイント近く、研究経費では10ポイント近くも満足度が低い。

4-4. 悩み・不安

最後に悩み・不安についてみていこう。結論からいえば、高年齢学生が多くの項目で悩み・不安を抱えやすいことがみえてきた。

就職については、修士課程では51.9%が「よく悩む」としており、これは27歳以上の33.3%よりも大きな値となる。博士課程でも、どの類型においても45%以上が「よく悩む」と回答している。すでに就職が難しいということは、学生たちによって自覚されているとみることができる。

不安についてみると「強い不安に襲われた」に「よく体験した」とする割合は、同様に高年齢学生で増

加する傾向がある。

分析を通じては、高年齢学生の順調といえない姿がみえてきた。経済的に困難を抱え、不満や不安が高まっている。社会人学生については、前節で示したように満足度は低かったものの、悩みや不安についてもまた低い数値となっていることがわかる。満足度も低いが学生生活への悩み・不安も低いというのが社会人学生の特徴であるようだ。

I. 基本事項について伺います。

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
1. 性別	男	948 人	71.0 %	71.4 %
	女	380	28.5	28.6
	合計	1328	99.5	100.0
	無回答	7	0.5	
		1335	100.0	
2. 年齢	21-23 歳	265 人	19.9 %	19.9 %
	24-26 歳	578	43.3	43.4
	27-29 歳	208	15.6	15.6
	30-32 歳	121	9.1	9.1
	33-35 歳	51	3.8	3.8
	36 歳以上	109	8.2	8.2
	合計	1332	99.8	100.0
	無回答	3	0.2	
	1335	100.0		
3. A 課程	修士課程	684 人	51.2 %	51.5 %
	博士課程	490	36.7	36.9
	獣医学又は医学を履修する博士課程	38	2.8	2.9
	専門職学位課程	115	8.6	8.7
	合計	1327	99.4	100.0
	無回答	8	0.6	
	1335	100.0		
3. B 学年	1年	471 人	35.3 %	36.0 %
	2年	555	41.6	42.4
	3年	183	13.7	14.0
	4年	64	4.8	4.9
	5年	28	2.1	2.1
	6年	9	0.7	0.7
	合計	1310	98.1	100.0
	無回答	25	1.9	
	1335	100.0		
4. 現在の大学院入学前の出身大学等について教えてください。	◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ			
	本学の学部学生	340 人	25.5 %	42.6 %
	他大学の学部学生	376	28.2	47.1
	本学の他研究科の大学院生	5	0.4	0.6
	他大学の大学院生	19	1.4	2.4
	社会人	58	4.3	7.3
	その他	1	0.1	0.1
	合計	799	59.9	100.0
無回答・非該当	536	40.1		
	1335	100.0		
5. あなたは社会人経験を経て入学されましたか。	◎修士課程及び専門職学位課程の方のみ			
	いいえ	696 人	52.1 %	87.2 %
	社会人経験はあるが、現在は学業に専念している	70	5.2	8.8
	現在は社会人生活と学業を両立させている	32	2.4	4.0
	合計	798	59.8	100.0
無回答・非該当	537	40.1		
	1335	100.0		
6. 修士課程に入学したのは何年ですか。	◎修士課程の方のみ			
	2005 年	3 人	0.2 %	0.4 %
	2006 年	5	0.4	0.7
	2007 年	47	3.5	6.9
	2008 年	327	24.5	48.0
	2009 年	299	22.4	43.9
	合計	681	51.0	100.0
	無回答・非該当	654	49.0	
	1335	100.0		

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント	
◎博士課程の方のみ	本学の大学院生	333 人	24.9 %	68.8 %	
7. 現在の大学院入学前の出身大学等について教えてください。	本学の他研究科の大学院生	18	1.3	3.7	
	他大学の大学院生	70	5.2	14.5	
	社会人	60	4.5	12.4	
	その他	3	0.2	0.6	
	合 計	484	36.3	100.0	
	無回答・非該当	851	63.7		
		1335	100.0		
◎博士課程の方のみ	いいえ	345 人	25.8 %	70.8 %	
8. あなたは社会人経験を経て入学されましたか。	社会人経験はあるが、現在は学業に専念している	62	4.6	12.7	
	現在は社会人生活と学業を両立させている	80	6.0	16.4	
	合 計	487	36.5	100.0	
	無回答・非該当	848	63.5		
		1335	100.0		
◎博士課程の方のみ	2002 年	11 人	0.8 %	2.3 %	
9. 博士課程に入学または進学したのは何年ですか。	2003 年	10	0.7	2.1	
	2004 年	19	1.4	3.9	
	2005 年	34	2.5	7.0	
	2006 年	60	4.5	12.4	
	2007 年	92	6.9	19.0	
	2008 年	127	9.5	26.2	
	2009 年	132	9.9	27.2	
	合 計	485	36.3	100.0	
	無回答・非該当	850	63.7		
			1335	100.0	
10. 現在所属している研究科	人文社会系研究科	79 人	5.9 %	6.0 %	
	教育学研究科	43	3.2	3.2	
	法学政治学研究科	98	7.3	7.4	
	経済学研究科	17	1.3	1.3	
	総合文化研究科	130	9.7	9.8	
	理学系研究科	172	12.9	13.0	
	工学系研究科	244	18.3	18.4	
	農学生命科学研究科	104	7.8	7.8	
	医学系研究科	123	9.2	9.3	
	薬学系研究科	39	2.9	2.9	
	数理科学研究科	16	1.2	1.2	
	新領域創成科学研究科	164	12.3	12.4	
	情報理工学系研究科	49	3.7	3.7	
	学際情報学府	21	1.6	1.6	
	公共政策学教育部	26	1.9	2.0	
	合 計	1325	99.3	100.0	
	無回答	10	0.7		
			1335	100.0	
	11. 現在主に研究に従事している場所はどこですか。	所属する研究科	1082 人	81.0 %	81.9 %
		それ以外の学内の研究科、学内の研究所	150	11.2	11.4
学外の研究機関		89	6.7	6.7	
合 計		1321	99.0	100.0	
	無回答	14	1.0		
		1335	100.0		
12. 主に通っているキャンパスはどちらですか。	本 郷	826 人	61.9 %	62.6 %	
	駒場Ⅰ	141	10.6	10.7	
	駒場Ⅱ	76	5.7	5.8	
	柏	160	12.0	12.1	
	その他	117	8.8	8.9	
	合 計	1320	98.9	100.0	
	無回答	15	1.1		
		1335	100.0		

Ⅱ. 大学院入学の目的

	度数	パーセント	無回答・非該当を除くパーセント
13. 本学の大学院に入学した目的は、どれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	高度の専門知識・技術を身につけるため	940 人	70.4 %
	大学等の研究・教育職をめざして	480	36.0
	企業の研究職をめざして	139	10.4
	学部卒業・修士修了で就職の機会がなかった	33	2.5
	現在の仕事に生かすため	49	3.7
	学位を取得するため	268	20.1
	社会に貢献できる能力・資質を身につける	318	23.8
	特に目的はない	22	1.6
	その他	50	3.7
14. 本学を選んだ理由は、どれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選んでください。)	自分の志望した研究科(専攻分野)	916 人	68.6 %
	スタッフ・環境・設備	766	57.4
	東大の伝統や雰囲気	193	14.5
	実力相応	109	8.2
	将来の進路	457	34.2
	社会的評価が高い	283	21.2
	親・教師・先輩の勧め	112	8.4
	経済的理由	152	11.4
	地理的に自宅に近い	154	11.5
	その他	80	6.0
15. 現在所属する大学院を選ぶ際、他にどのような進路を考えましたか。 (複数回答可)	本学の他の研究科	231 人	17.3 %
	他大学の大学院	587	44.0
	外国の大学院	118	8.8
	就職	199	14.9
	考えなかった	435	32.6
16. 最終的に本学を選んだ理由は何ですか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	希望専攻分野が東大の方が充実	312 人	61.1 %
	東大の方がネームバリューがある	138	27.0
	経済的理由	124	24.3
	外国で勉学・生活するには語学の問題	16	3.1
	その他	93	18.2

Ⅲ. 学会参加・研究活動について

17. 現在所属している日本国内、日本国外の学会について、所属学会数を回答してください。				
1. 日本国内	なし	467 人	35.0 %	35.2 %
	1	485	36.3	36.5
	2	200	15.0	15.1
	3以上	175	13.1	13.2
	合計	1327	99.4	100.0
	無回答	8	0.6	
		1335	100.0	
2. 日本国外	なし	1077 人	80.7 %	88.9 %
	1	120	9.0	9.9
	2	14	1.0	1.2
	3以上	1	0.1	0.1
	合計	1212	90.8	100.0
	無回答	123	9.2	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント	
18. 過去1年間の参加回数及び発表の件数を回答してください。					
1. 日本国内	参加回数	なし	409 人	30.6 %	30.8 %
		1	328	24.6	24.7
		2	265	19.9	20.0
		3以上	325	24.3	24.5
		合計	1327	99.4	100.0
		無回答	8	0.6	
		1335	100.0		
2. 日本国内	発表件数	なし	633 人	47.4 %	48.3 %
		1	350	26.2	26.7
		2	188	14.1	14.4
		3以上	139	10.4	10.6
		合計	1310	98.1	100.0
		無回答	25	1.9	
		1335	100.0		
3. 日本国外	参加回数	なし	995 人	74.5 %	78.5 %
		1	202	15.1	15.9
		2	50	3.7	3.9
		3以上	21	1.6	1.7
		合計	1268	95.0	100.0
		無回答	67	5.0	
		1335	100.0		
4. 日本国外	発表件数	なし	1022 人	76.6 %	80.7 %
		1	184	13.8	14.5
		2	43	3.2	3.4
		3以上	18	1.3	1.4
		合計	1267	94.9	100.0
		無回答	68	5.1	
		1335	100.0		
19. 大学院に入学してから海外での調査研究をした経験がありますか。	ある	221 人	16.6 %	16.6 %	
	ない	1110	83.1	83.4	
	合計	1331	99.7	100.0	
	無回答	4	0.3		
		1335	100.0		
20. 大学院に入学してから海外留学をした体験がありますか。	ある	86 人	6.4 %	6.5 %	
	ない	1245	93.3	93.5	
	合計	1331	99.7	100.0	
	無回答	4	0.3		
		1335	100.0		
21. 外国の大学と交換留学制度があれば、留学したいと思っっていますか。	条件によっては留学したい	933 人	69.9 %	70.2 %	
	留学したいとは思わない	396	29.7	29.8	
	合計	1329	99.6	100.0	
	無回答	6	0.4		
		1335	100.0		
22. どの地域へ留学してみたいですか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	アジア	96 人	10.3 %		
	中近東	2	0.2		
	アフリカ	20	2.1		
	北アメリカ	692	74.2		
	中南米 (メキシコを含む)	17	1.8		
	西ヨーロッパ	720	77.2		
	東ヨーロッパ (ロシアを含む)	48	5.1		
	オセアニア	28	3.0		
	その他	4	0.4		
			1335	100.0	
23. あなたは、大学院在学期間中、海外留学の機会があれば希望しますか。	留学したい	474 人	35.5 %	36.0 %	
	どちらかといえば留学したい	309	23.1	23.5	
	どちらともいえない	275	20.6	20.9	
	どちらかといえば留学したくない	101	7.6	7.7	
	留学したくない	158	11.8	12.0	
	合計	1317	98.7	100.0	
	無回答	18	1.3		
		1335	100.0		

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
24. あなたご自身のこれまでの研究成果についてどうお考えですか。	満足	53 人	4.0 %	4.0 %
	まあ満足	381	28.5	28.8
	どちらとも言えない	387	29.0	29.3
	やや不満	300	22.5	22.7
	不満	201	15.1	15.2
	合計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
◎設問24で「不満」または「やや不満」と答えた方のみ				
25. それは次のどのような不満ですか。 (主たるものを3つまで選んでください。)	思うように研究成果が上がらない	298 人	57.5 %	
	今やっている研究の意義がはっきりつかめない	92	18.4	
	研究テーマがはっきり決まっていない	94	18.4	
	研究の見通しがたたない	136	26.9	
	自分の能力や適性に不安がある	210	40.9	
	研究時間を十分とれない	97	18.8	
	自分の研究について指導を受けられる教員がいない	48	9.4	
	教員の指導が不十分	71	14.0	
	指導教員と意見が合わない	31	6.0	
	論文発表の機会が少ない	20	3.6	
	関連講義が十分そろっていない	26	5.2	
	研究設備・スペースが不備	37	7.0	
	図書設備が不備	21	4.0	
	研究上の経費が不足	47	8.8	
	研究室の雑用で自分の研究ができない	30	5.8	
	その他	28	5.6	
26. 研究室での日常生活の中で、次の各項目を総合的に見て、満足感をどの程度持っていますか。 (それぞれの項目について、該当するものを選んでください。)				
1. 研究設備・スペースについて	満足	405 人	30.3 %	31.0 %
	まあ満足	466	34.9	35.6
	どちらとも言えない	144	10.8	11.0
	やや不満	171	12.8	13.1
	不満	122	9.1	9.3
	合計	1308	98.0	100.0
	無回答・非該当	27	2.0	
	1335	100.0		
2. 研究上の経費について	満足	404 人	30.3 %	31.0 %
	まあ満足	323	24.2	24.8
	どちらとも言えない	289	21.6	22.1
	やや不満	169	12.7	13.0
	不満	120	9.0	9.2
	合計	1305	97.8	100.0
	無回答・非該当	30	2.2	
	1335	100.0		
3. 人間関係について	満足	350 人	26.2 %	26.8 %
	まあ満足	532	39.9	40.7
	どちらとも言えない	233	17.5	17.8
	やや不満	126	9.4	9.6
	不満	66	4.9	5.0
	合計	1307	97.9	100.0
	無回答・非該当	28	2.1	
	1335	100.0		
4. 指導教員の研究指導方法について	満足	382 人	28.6 %	29.2 %
	まあ満足	427	32.0	32.6
	どちらとも言えない	270	20.2	20.6
	やや不満	130	9.7	9.9
	不満	99	7.4	7.6
	合計	1308	98.0	100.0
	無回答・非該当	27	2.0	
	1335	100.0		

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント		
5. 所属研究科の事務の対応について	満足	418 人	31.3 %	32.0 %		
	まあ満足	517	38.7	39.6		
	どちらとも言えない	231	17.3	17.7		
	やや不満	95	7.1	7.3		
	不満	46	3.4	3.5		
	合計	1307	97.9	100.0		
	無回答・非該当	28	2.1			
		1335	100.0			
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
27. あなたの研究にあなた自身が負担しているお金は過去1年間でどれくらいですか。	研究に必要な書籍類	1278	0	1000	57.34	89.44
	研究に必要なコピー代	1272	0	500	16.17	31.96
	調査、実験等の費用	1240	0	8000	43.96	275.72
	学会費、学会旅費、参加費	1263	0	1000	38.42	87.65
	その他	669	0	2000	26.50	123.81
単位：(千円)						
28. 大学、短大などの非常勤講師或いはTA、RAをしていますか。	現在している	336 人	25.2 %	25.7 %		
	過去にしたことがある	311	23.3	23.8		
	していない(したことがない)	660	49.4	50.5		
	合計	1307	97.9	100.0		
	無回答	28	2.1			
		1335	100.0			
29. 研究室に、あなたの専用又は共用の机はありますか。	専用の机がある	894 人	67.0 %	68.0 %		
	共用の机がある	212	15.9	16.1		
	どちらもない	209	15.7	15.9		
	合計	1315	98.5	100.0		
	無回答	20	1.5			
		1335	100.0			
30. 一週間に何日ぐらい大学に来ますか。	0日	36 人	2.7 %	2.7 %		
	1日-2日	175	13.1	13.3		
	3日-4日	238	17.8	18.1		
	5日	380	28.5	28.9		
	6日	322	24.1	24.5		
	7日	164	12.3	12.5		
	合計	1315	98.5	100.0		
	無回答	20	1.5			
		1335	100.0			
◎博士課程の方のみ						
31. あなたの博士論文の執筆予定はいかがですか。	既書いた	41 人	3.1 %	8.5 %		
	在籍中に書く予定	374	28.0	77.4		
	在籍中に書く予定はないが、課程博士は取りたい	56	4.2	11.6		
	課程博士の期間内には書かない	12	0.9	2.5		
	合計	483	36.2	100.0		
	無回答	852	63.8			
		1335	100.0			
32. 研究上(研究発表と論文作成等を含む)使用する主な言語はどれですか。	日本語	885 人	36.3 %	90.5 %		
	英語	673	31.4	78.2		
	中国語	12	0.5	1.3		
	独語	9	0.5	1.3		
	仏語	19	1.2	3.0		
	その他	17	0.9	2.2		
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
33. 1日平均および1週平均の研究時間はどれくらいですか。(自宅等での作業時間も含む)	1日平均の研究時間	922	0	45	7.94	3.90
	1週平均の研究時間	922	0	112	45.01	23.42
単位：(時間)						

IV. 就職について

		度数	パーセント	無回答・非該当を 除くパーセント
◎修士課程の方のみ				
34. 修士課程修了後について、どのように考えていますか。 (第2志望まで選択)	修士課程と同じ研究室の博士課程へ進学	264 人	19.8 %	38.6 %
	東京大学の他の研究室の博士課程へ進学	37	2.8	5.4
	他大学の博士課程へ進学	19	1.4	2.8
	学士入学	12	0.9	1.8
	留学(博士課程進学後の留学を含む)	78	5.8	11.4
	研究職に就職	257	19.3	37.6
	研究職や専門職以外で就職	317	23.7	46.3
	現在の職場に戻りたい	11	0.8	1.6
	現在の職場から新しい職場へ移りたい	9	0.7	1.3
その他	38	2.8	5.6	
◎博士課程の方のみ				
35. 博士課程修了後について、どのように考えていますか。 (第2志望まで選択)	博士課程と同じ研究室に特別研究員など	125 人	9.4 %	24.1 %
	東京大学の他の研究室に特別研究員など	54	4.0	10.3
	他大学の研究室に特別研究員など	96	7.2	7.2
	国公立研究機関(独法を含む)の研究室に特別研究員など	106	7.9	20.4
	学士入学	3	0.2	0.6
	留 学	83	6.2	16.1
	研究職に就職	236	17.7	45.4
	研究職や専門職以外で就職	42	3.1	8.0
	現在の職場に戻りたい(社会人入学のみ)	43	3.2	8.2
	現在の職場から新しい職場へ移りたい(社会人入学のみ)	19	1.4	3.6
その他	30	2.2	5.7	
36. 将来どのような方面に就職したいと思っ ていますか。 (第2志望まで選択)	大学(短大、附置研究所)の教育職、研究職	514 人	38.5 %	
	大学以外の教育職	58	4.3	
	国公立研究機関(独法を含む)の研究職	333	24.9	
	国、地方公共団体の研究職、技術職	64	4.8	
	国、地方公共団体の一般職	58	4.3	
	企業の研究職、技術職	315	23.6	
	企業の一般職	138	10.3	
	専門職 ※大学教員や研究職以外(弁護士、公認会計士、税理士、医師等)	104	7.8	
	その他	39	2.9	
37. 就職の見通しについて、どのように考 えていますか。	既に就職が決まっている	193 人	14.5 %	20.2 %
	決まっていないが、見通しは明るい	49	3.7	5.1
	何とかなると思っ ている	282	21.1	29.6
	かなり厳しいと思っ ている	230	17.2	24.1
	見通しが立たない	116	8.7	12.2
	あまり考えていない	55	4.1	5.8
	その他	29	2.2	3.0
	合 計	954	71.5	100.0
	無回答	381	28.5	
	1335	100.0		
38. 就職の情報について、どのように考 えていますか。	公募で探す	281 人	21.0 %	
	所属する研究室の関係者(教授、先輩等)の斡旋に頼る	128	9.6	
	自分で情報収集に努める	527	39.5	
	その他	35	2.6	
◎教育職、研究職を目指している大学院生にお尋ねします。				
39. 博士課程修了後、何年位で教育職・研究職に就けると 思いますか。	直ちに	75 人	5.6 %	14.8 %
	1 - 2 年	89	6.7	17.5
	3 - 5 年	151	11.3	29.7
	5 - 10 年	48	3.6	9.4
	見通しが立たない	145	10.9	28.5
	合 計	508	38.1	100.0
無回答	827	61.9		
	1335	100.0		

V. 不安・悩みについて

度数 パーセント 無回答・非該当
を除くパーセント

40. 現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。 (それぞれの項目について、該当するものを選んでください。)				
1. 勉学（成績・単位など）	良く悩む	345 人	25.8 %	26.1 %
	ときに悩む	424	31.8	32.1
	あまり悩まない	354	26.5	26.8
	全く悩まない	198	14.8	15.0
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
2. 進学	良く悩む	220 人	16.5 %	16.8 %
	ときに悩む	306	22.9	23.4
	あまり悩まない	366	27.4	28.0
	全く悩まない	416	31.2	31.8
	合 計	1308	98.0	100.0
	無回答	27	2.0	
		1335	100.0	
3. 就職	良く悩む	557 人	41.7 %	42.3 %
	ときに悩む	439	32.9	33.3
	あまり悩まない	191	14.3	14.5
	全く悩まない	131	9.8	9.9
	合 計	1318	98.7	100.0
	無回答	17	1.3	
		1335	100.0	
4. 将来の進路や生き方	良く悩む	655 人	49.1 %	49.6 %
	ときに悩む	431	32.3	32.7
	あまり悩まない	162	12.1	12.3
	全く悩まない	72	5.4	5.5
	合 計	1320	98.9	100.0
	無回答	15	1.1	
		1335	100.0	
5. 友人との対人関係	良く悩む	74 人	5.5 %	5.6 %
	ときに悩む	306	22.9	23.2
	あまり悩まない	629	47.1	47.6
	全く悩まない	312	23.4	23.6
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
6. 教職員との対人関係	良く悩む	152 人	11.4 %	11.5 %
	ときに悩む	339	25.4	25.7
	あまり悩まない	554	41.5	41.9
	全く悩まない	276	20.7	20.9
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
7. 性・異性・恋愛・結婚	良く悩む	227 人	17.0 %	17.2 %
	ときに悩む	450	33.7	34.1
	あまり悩まない	384	28.8	29.1
	全く悩まない	260	19.5	19.7
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
8. 経済的なことや経済的自立	良く悩む	476 人	35.7 %	36.0 %
	ときに悩む	464	34.8	35.1
	あまり悩まない	285	21.3	21.6
	全く悩まない	96	7.2	7.3
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
9. 自分の性格	良く悩む	206 人	15.4 %	15.6 %
	ときに悩む	401	30.0	30.4
	あまり悩まない	497	37.2	37.7
	全く悩まない	216	16.2	16.4
	合 計	1320	98.9	100.0
	無回答	15	1.1	
		1335	100.0	
10. 自分の体調や健康	良く悩む	165 人	12.4 %	12.5 %
	ときに悩む	417	31.2	31.6
	あまり悩まない	476	35.7	36.0
	全く悩まない	263	19.7	19.9
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
11. 人生の意義・目標	良く悩む	312 人	23.4 %	24.1 %
	ときに悩む	424	31.8	32.8
	あまり悩まない	370	27.7	28.6
	全く悩まない	186	13.9	14.4
	合 計	1292	96.8	100.0
	無回答	43	3.2	
		1335	100.0	
41. あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれと相談したり、話合ったりしますか。 (それぞれの項目について、該当するものを選んでください。)				
1. 父・母	良く相談する	227 人	17.0 %	17.2 %
	ときどき相談する	277	20.7	21.0
	たまに相談する	454	34.0	34.4
	全く相談しない	360	27.0	27.3
	合 計	1318	98.7	100.0
	無回答	17	1.3	
		1335	100.0	
2. 兄弟・姉妹	良く相談する	65 人	4.9 %	5.0 %
	ときどき相談する	131	9.8	10.1
	たまに相談する	294	22.0	22.7
	全く相談しない	805	60.3	62.2
	合 計	1295	97.0	100.0
	無回答	40	3.0	
		1335	100.0	
3. なんでも相談コーナー・学生相談 所等	良く相談する	12 人	0.9 %	0.9 %
	ときどき相談する	28	2.1	2.1
	たまに相談する	86	6.4	6.5
	全く相談しない	1191	89.2	90.4
	合 計	1317	98.7	100.0
	無回答	18	1.3	
		1335	100.0	
4. 大学の教職員	良く相談する	36 人	2.7 %	2.7 %
	ときどき相談する	120	9.0	9.1
	たまに相談する	463	34.7	35.2
	全く相談しない	695	52.1	52.9
	合 計	1314	98.4	100.0
	無回答	21	1.6	
		1335	100.0	
5. 大学内の同じ学科や研究室の友人	良く相談する	165 人	12.4 %	12.5 %
	ときどき相談する	348	26.1	26.4
	たまに相談する	523	39.2	39.7
	全く相談しない	281	21.0	21.3
	合 計	1317	98.7	100.0
	無回答	18	1.3	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
6. 大学内のサークルや団体の友人	良く相談する	60 人	4.5 %	4.6 %
	ときどき相談する	177	13.3	13.6
	たまに相談する	242	18.1	18.6
	全く相談しない	825	61.8	63.3
	合 計	1304	97.7	100.0
	無回答	31	2.3	
		1335	100.0	
7. 大学外の友人	良く相談する	177 人	13.3 %	13.4 %
	ときどき相談する	387	29.0	29.4
	たまに相談する	445	33.3	33.8
	全く相談しない	309	23.1	23.4
	合 計	1318	98.7	100.0
	無回答	17	1.3	
		1335	100.0	
8. 先輩	良く相談する	119 人	8.9 %	9.1 %
	ときどき相談する	315	23.6	24.0
	たまに相談する	426	31.9	32.5
	全く相談しない	452	33.9	34.5
	合 計	1312	98.3	100.0
	無回答	23	1.7	
		1335	100.0	
9. 恋人	良く相談する	237 人	17.8 %	18.7 %
	ときどき相談する	197	14.8	15.6
	たまに相談する	209	15.7	16.5
	全く相談しない	623	46.7	49.2
	合 計	1266	94.8	100.0
	無回答	69	5.2	
		1335	100.0	
42. あなたは、最近6ヶ月の間に次の項目について、体験したり悩んだりしましたか。 (それぞれの項目について、該当するものを選んでください。)				
1. 強い不安に襲われた	良く体験した	297 人	22.2 %	22.5 %
	時に体験した	474	35.5	35.9
	あまり体験しなかった	286	21.4	21.6
	全く体験しなかった	265	19.9	20.0
	合 計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
2. 自分でもバカらしいと思う考えが 浮かんんだり、自分のすることを何度も 確かめてみなければならなかった	良く体験した	132 人	9.9 %	10.0 %
	時に体験した	277	20.7	21.0
	あまり体験しなかった	408	30.6	30.9
	全く体験しなかった	503	37.7	38.1
	合 計	1320	98.9	100.0
	無回答	15	1.1	
		1335	100.0	
3. 人と話していてとても緊張したり、 不安を感じた	良く体験した	137 人	10.3 %	10.4 %
	時に体験した	371	27.8	28.1
	あまり体験しなかった	423	31.7	32.0
	全く体験しなかった	391	29.3	29.6
	合 計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
4. 他の人が自分に敵意を持っている、 人から監視されていると感じた	良く体験した	54 人	4.0 %	4.1 %
	時に体験した	160	12.0	12.1
	あまり体験しなかった	342	25.6	25.9
	全く体験しなかった	765	57.3	57.9
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
5. バス・電車などの乗り物に乗るのが怖かった	良く体験した	18 人	1.3 %	1.4 %
	時に体験した	52	3.9	3.9
	あまり体験しなかった	139	10.4	10.5
	全く体験しなかった	1111	83.2	84.2
	合 計	1320	98.9	100.0
	無回答	15	1.1	
		1335	100.0	
6. 気分が落ち込んだり、何も興味が持てなくなった	良く体験した	167 人	12.5 %	12.6 %
	時に体験した	354	26.5	26.8
	あまり体験しなかった	365	27.3	27.6
	全く体験しなかった	435	32.6	32.9
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
7. 人と一緒にいても寂しい感じがした	良く体験した	102 人	7.6 %	7.7 %
	時に体験した	276	20.7	20.9
	あまり体験しなかった	354	26.5	26.8
	全く体験しなかった	589	44.1	44.6
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
8. 体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした	良く体験した	54 人	4.0 %	4.1 %
	時に体験した	150	11.2	11.4
	あまり体験しなかった	249	18.7	18.8
	全く体験しなかった	868	65.0	65.7
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
9. イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたりしたい衝動にかられた	良く体験した	85 人	6.4 %	6.4 %
	時に体験した	248	18.6	18.8
	あまり体験しなかった	306	22.9	23.2
	全く体験しなかった	682	51.1	51.6
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
10. やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった	良く体験した	151 人	11.3 %	11.4 %
	時に体験した	358	26.8	27.1
	あまり体験しなかった	354	26.5	26.8
	全く体験しなかった	458	34.3	34.7
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
11. ついつい過食してしまう傾向があった	良く体験した	125 人	9.4 %	9.5 %
	時に体験した	293	21.9	22.2
	あまり体験しなかった	321	24.0	24.3
	全く体験しなかった	582	43.6	44.1
	合 計	1321	99.0	100.0
	無回答	14	1.0	
		1335	100.0	
12. 食欲がなくなり、食べ物を口にしないと思った	良く体験した	40 人	3.0 %	3.0 %
	時に体験した	176	13.2	13.4
	あまり体験しなかった	303	22.7	23.0
	全く体験しなかった	799	59.9	60.6
	合 計	1318	98.7	100.0
	無回答	17	1.3	
		1335	100.0	

43. あなたの悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。 (それぞれの項目について、該当するものを選んでください。)				
1. 学生が教員や職員と接触する機会を増やす	全くそう思う	105	7.9 %	8.0 %
	まあそう思う	479	35.9	36.4
	あまりそう思わない	464	34.8	35.3
	全くそう思わない	267	20.0	20.3
	合 計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
2. 教務課や学生課などの事務機能を充実させる	全くそう思う	70	5.2 %	5.3 %
	まあそう思う	342	25.6	26.0
	あまりそう思わない	569	42.6	43.2
	全くそう思わない	335	25.1	25.5
	合 計	1316	98.6	100.0
	無回答	19	1.4	
		1335	100.0	
3. クラス担任制度やチューター制度を充実させる	全くそう思う	60	4.5 %	4.6 %
	まあそう思う	285	21.3	21.7
	あまりそう思わない	572	42.8	43.5
	全くそう思わない	398	29.8	30.3
	合 計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
4. 学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	全くそう思う	127	9.5 %	9.7 %
	まあそう思う	445	33.3	33.8
	あまりそう思わない	437	32.7	33.2
	全くそう思わない	306	22.9	23.3
	合 計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
5. 進学について相談機能を充実させる	全くそう思う	221	16.6 %	16.8 %
	まあそう思う	549	41.1	41.8
	あまりそう思わない	311	23.3	23.7
	全くそう思わない	233	17.5	17.7
	合 計	1314	98.4	100.0
	無回答	21	1.6	
		1335	100.0	
6. 就職指導や進路相談機能を充実させる	全くそう思う	331	24.8 %	25.2 %
	まあそう思う	562	42.1	42.7
	あまりそう思わない	252	18.9	19.2
	全くそう思わない	170	12.7	12.9
	合 計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
7. 健康相談や保健センターの機能を充実させる	全くそう思う	191	14.3 %	14.5 %
	まあそう思う	538	40.3	40.9
	あまりそう思わない	378	28.3	28.7
	全くそう思わない	210	15.7	15.9
	合 計	1317	98.7	100.0
	無回答	18	1.3	
		1335	100.0	
8. 個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	全くそう思う	168	12.6 %	12.8 %
	まあそう思う	520	39.0	39.7
	あまりそう思わない	383	28.7	29.3
	全くそう思わない	238	17.8	18.2
	合 計	1309	98.1	100.0
	無回答	26	1.9	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
9. 奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する	全くそう思う	757 人	56.7 %	57.6 %
	まあそう思う	343	25.7	26.1
	あまりそう思わない	142	10.6	10.8
	全くそう思わない	73	5.5	5.6
	合 計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
10. 学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	全くそう思う	231 人	17.3 %	17.6 %
	まあそう思う	496	37.2	37.7
	あまりそう思わない	381	28.5	29.0
	全くそう思わない	206	15.4	15.7
	合 計	1314	98.4	100.0
	無回答	21	1.6	
		1335	100.0	

VI. 大学への要望

44. 現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。

(それぞれの項目について回答してください。)

1. 社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	非常に重要	118 人	8.8 %	8.9 %
	かなり重要	187	14.0	14.1
	重 要	445	33.3	33.7
	あまり重要でない	434	32.5	32.8
	ほとんど重要でない	138	10.3	10.4
	合 計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
2. 社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	非常に重要	239 人	17.9 %	18.1 %
	かなり重要	320	24.0	24.2
	重 要	499	37.4	37.8
	あまり重要でない	193	14.5	14.6
	ほとんど重要でない	69	5.2	5.2
	合 計	1320	98.9	100.0
	無回答	15	1.1	
		1335	100.0	
3. 社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	非常に重要	136 人	10.2 %	10.3 %
	かなり重要	208	15.6	15.7
	重 要	409	30.6	30.9
	あまり重要でない	399	29.9	30.2
	ほとんど重要でない	171	12.8	12.9
	合 計	1323	99.1	100.0
	無回答	12	0.9	
		1335	100.0	
4. 社会的貢献を促進するために、(むしろ)基礎研究を充実させる	非常に重要	411 人	30.8 %	31.1 %
	かなり重要	346	25.9	26.2
	重 要	432	32.4	32.7
	あまり重要でない	103	7.7	7.8
	ほとんど重要でない	30	2.2	2.3
	合 計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
5. 研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	非常に重要	510 人	38.2 %	38.6 %
	かなり重要	419	31.4	31.7
	重 要	329	24.6	24.9
	あまり重要でない	46	3.4	3.5
	ほとんど重要でない	18	1.3	1.4
	合 計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
6. 研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	非常に重要	409 人	30.6 %	30.9 %
	かなり重要	421	31.5	31.8
	重要	375	28.1	28.4
	あまり重要でない	93	7.0	7.0
	ほとんど重要でない	24	1.8	1.8
	合計	1322	99.0	100.0
	無回答	13	1.0	
		1335	100.0	
7. 教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	非常に重要	462 人	34.6 %	34.9 %
	かなり重要	388	29.1	29.3
	重要	353	26.4	26.7
	あまり重要でない	92	6.9	7.0
	ほとんど重要でない	28	2.1	2.1
	合計	1323	99.1	100.0
	無回答	12	0.9	
		1335	100.0	
8. 教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	非常に重要	280 人	21.0 %	21.2 %
	かなり重要	300	22.5	22.7
	重要	434	32.5	32.8
	あまり重要でない	232	17.4	17.5
	ほとんど重要でない	77	5.8	5.8
	合計	1323	99.1	100.0
	無回答	12	0.9	
		1335	100.0	
45. 大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。 (主なものを3つまで選んでください。)	カリキュラムの改革	156 人	11.7 %	
	教室・研究室の充実	357	26.7	
	実験室や実習室の充実	118	8.8	
	教育スタッフの充実	221	16.6	
	学生生活関連施設の充実	137	10.3	
	小人数教育の実施	72	5.4	
	授業の方法の工夫・改善	190	14.2	
	単位認定や学年試験を緩やかに	56	4.2	
	単位認定や学年試験を厳しく	68	5.1	
	キャンパスの拡大・移転・統合	34	2.5	
	図書館の充実	222	16.6	
	カウンセリング・サービスの充実	40	3.0	
	学生自治に対する適切な助成と助言	12	0.9	
	学生自治の尊重	18	1.3	
	奨学金(育英資金)・育英貸付金などの拡充や増額	652	48.8	
	就職対策の充実	347	26.0	
	留学・国際交流への支援	234	17.5	
	オーバードクター問題やポストドク問題への対応	629	47.1	
	ハラスメントへの対応	69	5.2	
	その他	92	6.9	

VII. 家庭の状況について

46. 実家の所在地はどこですか。	東京都	332 人	24.9 %	25.3 %
	関東地方(東京都を除く)	449	33.6	34.2
	北海道	20	1.5	1.5
	東北地方	47	3.5	3.6
	中部地方	164	12.3	12.5
	近畿地方	136	10.2	10.4
	中国地方	60	4.5	4.6
	四国地方	31	2.3	2.4
	九州・沖縄地方	69	5.2	5.3
	日本国外	4	0.3	0.3
	合計	1312	98.3	100.0
	無回答	23	1.7	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
47. 結婚していますか。	未婚	1138 人	85.2 %	86.5 %
	既婚	177	13.3	13.5
	合計	1315	98.5	100.0
	無回答	20	1.5	
		1335	100.0	
48. 子供は何人いますか。	0 人	86 人	6.4 %	48.6 %
	1 人	55	4.1	31.1
	2 人	26	1.9	14.7
	3 人以上	10	0.7	5.6
	合計	177	13.3	100.0
	無回答	1158	86.7	
	1335	100.0		
◎子供のいる方のみ				
49. 保育所に預けていますか。	いる	30 人	2.2 %	33.3 %
	いない	60	4.5	66.7
	合計	90	6.7	100.0
	無回答・非該当	1245	93.3	
	1335	100.0		
50. ◎子供のいる方のみ				
あなたの子供の世話はだれがしていますか。 (2つ以上にわたる場合は2つまで選び、主たるものか従たるものか選んでください。)				
1. 自分	主たる場合	33 人	2.5 %	52.4 %
	従たる場合	30	2.2	47.6
	合計	63	4.7	100.0
	無回答・非該当	1272	95.3	
	1335	100.0		
2. 配偶者	主たる場合	60 人	4.5 %	81.1 %
	従たる場合	14	1.0	18.9
	合計	74	5.5	100.0
	無回答・非該当	1261	94.5	
	1335	100.0		
3. 自分又は配偶者の親	主たる場合	2 人	0.1 %	16.7 %
	従たる場合	10	0.7	83.3
	合計	12	0.9	100.0
	無回答・非該当	1323	99.1	
	1335	100.0		
4. その他の親族	主たる場合	- 人	- %	- %
	従たる場合	-	-	-
	無回答・非該当	1335	100.0	
5. 知人	主たる場合	- 人	- %	- %
	従たる場合	1	0.1	100.0
	無回答・非該当	1334	99.9	
	1335	100.0		
6. その他 ()	主たる場合	- 人	- %	- %
	従たる場合	4	0.3	100.0
	合計	1331	99.7	
	1335	100.0		
51. あなたの家族は、あなたを含めて何人ですか。 (家族とは、生計を共にしている者)	1 人	237 人	17.8 %	18.1 %
	2 人	118	8.8	9.0
	3 人	322	24.1	24.6
	4 人	387	29.0	29.6
	5 人	180	13.5	13.8
	6 人	48	3.6	3.7
	7 人	13	1.0	1.0
	8 人	2	0.1	0.2
	9 人以上	1	0.1	0.1
	合計	1308	98.0	100.0
無回答	27	2.0		
	1335	100.0		

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント		
52. あなたの現在の生計を主に支えているのは誰ですか。 (複数回答可)	父	838 人	62.8 %			
	母	287	21.5			
	本人	416	31.2			
	配偶者	83	6.2			
	その他	46	3.4			
◎社会人入学者の方はご自分について記入してください						
53. あなたの親元の職業はどれにあたりますか。 (社会人入学者はご自分の職業)	父	専門的、技術的職業	216 人	16.2 %		
		教育的職業	111	8.3		
		管理的職業	202	15.1		
		事務	39	2.9		
		販売	26	1.9		
		農・林・漁業	12	0.9		
		生産工程・採掘作業	15	1.1		
		運輸・通信・保安・サービス	74	5.5		
		無職	63	4.7		
	その他	24	1.8			
	母	専門的、技術的職業	67	5.0		
		教育的職業	116	8.7		
		管理的職業	21	1.6		
		事務	96	7.2		
		販売	32	2.4		
農・林・漁業		8	0.6			
生産工程・採掘作業		7	0.5			
運輸・通信・保安・サービス		31	2.3			
無職		182	13.6			
その他	39	2.9				
本人	専門的、技術的職業	106	7.9			
	教育的職業	28	2.1			
	管理的職業	14	1.0			
	事務	12	0.9			
	販売	1	0.1			
	農・林・漁業	0	0.0			
	生産工程・採掘作業	1313	98.4			
	運輸・通信・保安・サービス	11	0.8			
	無職	54	4.0			
その他	20	1.5				
◎社会人入学者の方はご自分について記入してください						
54. あなたの親元の年収(税込)はどれくらいですか。 (給与生活者の場合はボーナスも含めてください。)	記入あり	387 人	29.0 %	52.5 %		
	わからない	350	26.2	47.5		
	合計	737	55.2	100.0		
	無回答	598	44.8			
		1335	100.0			
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
		616	0	800	96.60	89.41
単位：(十万円)						

VIII. 生活費の状況について

(単位：千円)

		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
55. 生活費の状況 右の各欄に金額を記入してください。 (最近3ヶ月の実績から、平均1ヶ月の 収支額を、該当しない場合は、「0」 を記入する。)	◎あなた自身の「経済生活」について伺いま す。					
	衣料費	1275	0	200	10.00	12.648
	食費	1283	0	200	33.68	21.38
	住居費	1284	0	370	48.56	45.05
	光熱水費	1277	0	100	7.94	8.88
	研究・勉学費	1275	0	600	14.19	24.57
	教養・娯楽費	1279	0	300	14.51	16.64
	子供の養育・娯楽費	1242	0	500	4.19	25.01
	通学費	1273	0	240	7.57	13.81
	通信費	1275	0	100	7.84	7.21
	その他雑費	1254	0	220	11.35	16.97
	支出合計	1266	2	1050	156.52	102.97
	家庭からの仕送り・小遣い	1261	0	400	43.09	59.58
	助成金・奨学金	1262	0	960	57.97	76.07
	学内研究経費等	1236	0	600	18.60	40.76
	アルバイト	1246	0	3000	22.49	100.68
定職	1226	0	990	37.63	123.59	
配偶者の収入	1213	0	5000	22.55	164.38	
その他	1119	0	400	3.28	23.78	
収入合計	1252	0	3090	188.17	168.67	

食費
自宅生は外食代(費)を記入してください。

住居費
住宅ローン等の返済を含む。

研究・勉学費
勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具類
代、実習旅費等
(授業料等の学校納付金を除く)。

教養・娯楽費
教養・娯楽のための書籍代、サークルの支出、
勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、
映画・演劇・音楽会の入場料等。

通信費
電話代、インターネット代等。

その他雑費
理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン
代、医療費等。

家庭からの仕送り・小遣い
親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い
等。

助成金・奨学金
日本学術振興会の研究奨励金、日本学生支援
機構の奨学金及び他の機関からの奨学金。

学内研究経費等
博士課程研究遂行協力制度、RA、TA等、東大
の制度によるもの。

アルバイト
学外での家庭教師、塾、予備校講師等。

定職
非常勤職員、助手、研究員、研究的で継続的
なパート等も含む。

IX. 研究奨励金及び奨学金について

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
56. 現在、日本学術振興会の研究奨励金を 受けていますか。	受けている	269 人	20.1 %	21.1 %
	受けたいが受けられなかった	471	35.3	36.9
	受けたくない	52	3.9	4.1
	受ける必要はない	483	36.2	37.9
	合計	1275	95.5	100.0
	無回答	60	4.5	
		1335	100.0	
57. 現在、他の奨学的な資金を受けていま すか。 (博士課程研究遂行協力制度、RA、TA を除く)	受けている	322 人	24.1 %	25.1 %
	受けたいが受けられなかった	371	27.8	28.9
	受けたくない	66	4.9	5.1
	受ける必要はない	524	39.3	40.8
	合計	1283	96.1	100.0
	無回答	52	3.9	
		1335	100.0	
58. その理由はどれにあたりますか。	◎設問56 または57 で「受けられなかつ た」、「受けたくない」と答えた方のみ			
	事務手続きが煩雑だから	56 人	4.2 %	7.8 %
	掲示等に気がつかなかった	74	5.5	10.3
	書類を期限までに整えられなかった	52	3.9	7.2
	出願したが採用されなかった	180	13.5	25.0
	貸与なので申請しなかった	126	9.4	17.5
その他	125	9.4	17.4	

		度数	パーセント	無回答・非該当を除くパーセント	
59. どの奨学的な資金を受けていますか。 (いくつでも選んでください。)	◎設問56 または57 で「受けている」と答えた方のみ (奨学的な資金を受けている方のみ)	日本学術振興会 (特別研究員)	120 人	9.0 %	21.1 %
		日本学生支援機構	377	28.2	66.1
		地方公共団体 (自治体)	1	0.1	0.2
		民間の奨学団体	32	2.4	5.6
		日本以外の奨学団体	5	0.4	0.9
60. 奨学的な資金の主たる支出目的 (用途) はどれにあたりますか。 (主たるものを3つまで選んでください。)	◎設問56 または57 で「受けている」と答えた方のみ (奨学的な資金を受けている方のみ)	生活費 (衣・食・住居費)	443 人	33.2 %	77.7 %
		授業料	252	18.9	44.2
		研究・勉学費	261	19.6	45.8
		教養・娯楽費	122	9.1	21.4
		旅行 (帰省も含む)	26	1.9	4.6
		技術・資格等取得の費用	16	1.2	2.8
		貯金	67	5.0	11.8
		その他	11	0.8	1.9

X. アルバイトについて

61. 過去1年間にアルバイトをしましたか。	継続的 (1ヶ月以上) アルバイトをした	495 人	37.1 %	37.9 %		
	臨時 (1ヶ月未満) アルバイトをした	151	11.3	11.6		
	継続的なアルバイトと臨時的アルバイトを両方した	118	8.8	9.0		
	しなかった	543	40.7	41.5		
	合計	1307	97.9	100.0		
	無回答	28	2.1			
		1335	100.0			
62. そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	◎アルバイトをしている方のみ	大学などの非常勤講師	26 人	1.9 %	3.4 %	
		TA・RA	231	17.3	30.2	
		研究事務補助	93	7.0	12.2	
		小・中・高等学校の講師	10	0.7	1.3	
		塾・予備校の講師	137	10.3	17.9	
		家庭教師	118	8.8	15.4	
		試験監督・採点・通信教育の添削	62	4.6	8.1	
		執筆・翻訳・通訳・編集	47	3.5	6.2	
		一般事務	61	4.6	8.0	
		販売・サービス業	80	6.0	10.5	
		セールス・訪問調査	2	0.1	0.3	
		飲食店	42	3.1	5.5	
		宿直、警備	13	1.0	1.7	
		肉体労働	33	2.5	4.3	
	上記以外の専門を生かしたもの	104	7.8	13.6		
	その他	29	2.2	3.8		
63. ◎アルバイトをしている方のみ アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	費やす時間 (単位: 時間)	730	0	80	12.7	
	収入額 (単位: 千円)	734	0	3000	62.4	
64. アルバイトの紹介者はだれでしたか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	◎アルバイトをしている方のみ	大学の担当事務	81 人	6.1 %	10.6 %	
		指導教員	164	12.3	21.5	
		日本学生支援機構	1	0.1	0.1	
		新聞広告・アルバイト広告誌	66	4.9	8.6	
		インターネット	184	13.8	24.1	
		友人・知人等	277	20.7	36.3	
		アルバイト先と直接	123	9.2	16.1	
		伝言板	9	0.7	1.2	
		その他	47	3.5	6.2	
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
	費やす時間 (往復時間を含め、1週間あたりの平均)	730	0	80	12.74	12.15
	収入額 (1ヶ月あたりの平均) (単位: 千円)	734	0	3000	62.40	139.46

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント	
65. アルバイトをした理由はどれにあたりましたか。	◎アルバイトをしている方のみ	生活費を稼ぐため	407 人	30.5 %	53.3 %
		勉学費を稼ぐため	121	9.1	15.8
		学生生活を楽しむため	114	8.5	14.9
		社会経験のため	127	9.5	16.6
		その他	52	3.9	6.8
66. アルバイトの収入は、何に使っていましたか。 (主たるものを2つまで選んでください。)	◎アルバイトをしている方のみ	生活費(衣・食・住居費)	480 人	36.0 %	62.8 %
		授業料	109	8.2	14.3
		研究・勉学費	177	13.3	23.2
		教養・娯楽費	288	21.6	37.7
		旅行(帰省も含む)	74	5.5	9.7
		技術・資格等取得の費用	10	0.7	1.3
		預貯金	92	6.9	12.0
67. 継続的アルバイトは勉学の妨げになりませんでしたか。	◎アルバイトをしている方のみ	かなり妨げになった	75 人	5.6 %	12.8 %
	◎設問61で「継続的アルバイトをした」また「継続的アルバイトと臨時的アルバイトを両方した」と答えた方のみ	多少妨げになった	240	18.0	41.0
		妨げにならなかった	271	20.3	46.2
		合計	586	43.9	100.0
		無回答・非該当	749	56.1	
68. 現在の暮らし向きについてどうお考えですか。		かなり楽な方	177 人	13.3 %	13.7 %
		やや楽な方	257	19.3	19.8
		普通	463	34.7	35.7
		やや苦しい方	274	20.5	21.1
		大変苦しい方	118	8.8	9.1
		わからない	7	0.5	0.5
		合計	1296	97.1	100.0
		無回答・非該当	39	2.9	
		1335	100.0		

XI. 研究・学生生活のサポート体制について

69. あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。 (複数回答可)		電車	840 人	62.9 %			
		バス	137	10.3			
		自家用車	48	3.6			
		バイク	39	2.9			
		自転車	528	39.6			
		徒歩のみ	114	8.5			
		その他	9	0.7			
70. 片道の通学所要時間はどれくらいですか。 (分単位で記入してください。)		片道の通学所要時間 (単位：分)	1335	0	400	46.32	36.21
71. 本学の課外活動施設、福利厚生施設等のうち、あなたは次の諸施設の現状をどう思いますか。それぞれの項目について、回答してください。また、「不満」と答えた方は、下の〔 〕内に該当する施設名とその理由を簡潔に記入してください。	1. 研究科内の学生控室・談話室・ラウンジ		満足している	308 人	23.1 %	23.5 %	
			どちらとも言えない	425	31.8	32.5	
			不満である	313	23.4	23.9	
			利用したことがない	263	19.7	20.1	
			合計	1309	98.1	100.0	
		無回答	26	1.9			
			1335	100.0			
	2. 学生会館、課外活動共用施設、キャンパスプラザ(駒場)		満足している	135 人	10.1 %	10.4 %	
			どちらとも言えない	308	23.1	23.6	
			不満である	67	5.0	5.1	
		利用したことがない	794	59.5	60.9		
		合計	1304	97.7	100.0		
	無回答	31	2.3				
		1335	100.0				

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
3. 学生相談所	満足している	73 人	5.5 %	5.6 %
	どちらとも言えない	216	16.2	16.5
	不満である	41	3.1	3.1
	利用したことがない	977	73.2	74.8
	合 計	1307	97.9	100.0
	無回答	28	2.1	
		1335	100.0	
4. 屋内体育施設・駒場	満足している	88 人	6.6 %	6.8 %
	どちらとも言えない	249	18.7	19.1
	不満である	49	3.7	3.8
	利用したことがない	917	68.7	70.4
	合 計	1303	97.6	100.0
	無回答	32	2.4	
		1335	100.0	
5. 屋外体育施設・駒場 (野球場、テニスコート等)	満足している	85 人	6.4 %	6.5 %
	どちらとも言えない	200	15.0	15.4
	不満である	25	1.9	1.9
	利用したことがない	988	74.0	76.1
	合 計	1298	97.2	100.0
	無回答	37	2.8	
		1335	100.0	
6. 屋内体育施設・本郷 (御殿下記念館、二食プール)	満足している	397 人	29.7 %	30.4 %
	どちらとも言えない	213	16.0	16.3
	不満である	51	3.8	3.9
	利用したことがない	645	48.3	49.4
	合 計	1306	97.8	100.0
	無回答	29	2.2	
		1335	100.0	
7. 屋外体育施設・本郷 (御殿下グラウンド、農学部グラウンド、 野球場等)	満足している	207 人	15.5 %	15.9 %
	どちらとも言えない	189	14.2	14.5
	不満である	43	3.2	3.3
	利用したことがない	866	64.9	66.4
	合 計	1305	97.8	100.0
	無回答	30	2.2	
		1335	100.0	
8. 屋内体育施設・柏 (トレーニング施設)	満足している	37 人	2.8 %	2.8 %
	どちらとも言えない	93	7.0	7.1
	不満である	25	1.9	1.9
	利用したことがない	1152	86.3	88.1
	合 計	1307	97.9	100.0
	無回答	28	2.1	
		1335	100.0	
9. 屋外体育施設・柏 (ラグビー場)	満足している	22 人	1.6 %	1.7 %
	どちらとも言えない	91	6.8	7.0
	不満である	9	0.7	0.7
	利用したことがない	1185	88.8	90.7
	合 計	1307	97.9	100.0
	無回答	28	2.1	
		1335	100.0	
10. 二食内ホール、サークル部室等 (本郷)	満足している	57 人	4.3 %	4.4 %
	どちらとも言えない	163	12.2	12.5
	不満である	40	3.0	3.1
	利用したことがない	1044	78.2	80.1
	合 計	1304	97.7	100.0
	無回答	31	2.3	
		1335	100.0	
11. 検見川総合運動場、検見川セミ ナーハウス	満足している	130 人	9.7 %	10.0 %
	どちらとも言えない	199	14.9	15.2
	不満である	33	2.5	2.5
	利用したことがない	943	70.6	72.3
	合 計	1305	97.8	100.0
	無回答	30	2.2	
		1335	100.0	

		度数	パーセント	無回答・非該当 を除くパーセント
12. スポーティア (戸田、山中、下賀茂、乗鞍)	満足している	53 人	4.0 %	4.1 %
	どちらとも言えない	115	8.6	8.8
	不満である	15	1.1	1.1
	利用したことがない	1123	84.1	86.0
	合 計	1306	97.8	100.0
	無回答	29	2.2	
		1335	100.0	
13. 学内食堂	満足している	396 人	29.7 %	30.3 %
	どちらとも言えない	507	38.0	38.8
	不満である	346	25.9	26.5
	利用したことがない	58	4.3	4.4
	合 計	1307	97.9	100.0
	無回答	28	2.1	
		1335	100.0	
14. 学寮 (豊島、白金、三鷹国際学生宿舎)	満足している	38 人	2.8 %	2.9 %
	どちらとも言えない	92	6.9	7.1
	不満である	27	2.0	2.1
	利用したことがない	1145	85.8	87.9
	合 計	1302	97.5	100.0
	無回答	33	2.5	
		1335	100.0	
15. 保健センター	満足している	400 人	30.0 %	30.6 %
	どちらとも言えない	510	38.2	39.1
	不満である	95	7.1	7.3
	利用したことがない	301	22.5	23.0
	合 計	1306	97.8	100.0
	無回答	29	2.2	
		1335	100.0	

※学生生活実態調査は、本年（2010年）も引き続き行っています。



私の思いは…
東大を変える。

CHANGE!!



カリキュラム

奨学金

就職

キャンパスライフ

アルバイト

等

* 調査内容例

* マークシート式

学生の皆さんのニーズを大切にしたい…。

そんな思いから本年も学生生活実態調査を行ないます。この機会に本学で学ぶ皆さんの思いを聞かせて下さい。

調査は学部学生の約1/4を無作為に抽出のうえ、郵送にて行ないますので、ご協力をお願いします。

ひとりの声はみんなの意見…。

● 締め切り / 2010年12月24日(金)

第60回 学生生活実態調査 [2010]



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学生委員会 学生生活調査室

平成22年11月現在

調査室長	山口 勸	(大学院人文社会系研究科・文学部)
副調査室長	上別府 圭子	(大学院医学系研究科・医学部)
室員	伊藤 洋一	(大学院法学政治学研究科・法学部)
〃	大久保 達也	(大学院工学系研究科・工学部)
〃	塩谷 光彦	(大学院理学系研究科・理学部)
〃	勝間 進	(大学院農学生命科学研究科・農学部)
〃	柳川 範之	(大学院経済学研究科・経済学部)
〃	野矢 茂樹	(大学院総合文化研究科・教養学部)
〃	佐々木 司	(大学院教育学研究科・教育学部)
〃	村田 茂穂	(大学院薬学系研究科・薬学部)
〃	倉光 修	(学生相談ネットワーク本部)
〃	小林 雅之	(大学総合教育研究センター)
〃	矢野 由美	(本部部長 (教育・学生支援部))
〃	関根 弘	(本部課長 (教育・学生支援部))

担当部署 本部学務課学生総務チーム (教育・学生支援部)

◆ 表紙写真 ◆

学生支援センター

(本郷キャンパス・平成22年6月竣工)

- ・学生支援センター建物概観 (上)
- ・学生支援センター3階テラス (左下)
- ・学生支援センター1階、2階テラス (右下)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1406 2010年12月6日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL : 03-3811-3393

e-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

<http://www.u-tokyo.ac.jp>